

C2
3
02

福鎌隆彦編纂

本朝民鑑集式版
第六篇

千鍾房藏版

本朝民鑑第二版

第六編書目

○第一章

○檻獄則

○第三章

○懲治鑑入並出鑑手續

○第三章

○囚人護送及給與規則

○第四章

○逃亡人々相書々式

○第五章

○獄事計表編製手續

自第一
至第三百三十五條

自第三百三十六條
至第三百六十八條

自第三百三十九條
至第三百九十九條

自第九十一條
至第九十三條

自第九十四條
至第九十五條

○第六章

○罪案書式

自第二百九十六條

○第七章

○警察出張所設置方

自第二百二十四條

○第八章

○巡查召募規則並檢查表名簿式

自第二百二十五條

○第九章

○警部巡查給與規則

自第二百三十三條

○第十章

○警察勘定帳離形

自第二百七十四條

○第十一章

○街路取締規則

自第三百二十一條

○第十二章

○消防規則

自第三百二十七條

○第十三章

○官地拜借心得

自第三百五十八條

○第十四章

○部分木仕付條例

第三百五十六條

○第十五章

○紅茶製方傳習規則

第三百五十七條

○第十六章

○地籍編纂手續

自第三百五十八條

○第十七章

○旅費定則

自第三百七十七條

○第十八章

○陸軍武官恩給例

自第三百八十七條

○第十九章

○官舎貸渡規則

自第三百九十四條

本朝民鑑二版

第六編目次

第一章 檻獄則

第一條

(山形縣)

懲役限内逃亡ノ者一年ヲ過キ縛ニ就サル
片ハ役中ノ工錢ハ六年第三十三號布告ノ
通取計可然哉ノ儀伺

第二條

(高知縣)

當縣ニ裁判所設置ニ付テ右官員早々出張
ノ儀上申

第三條

(大坂府)

反獄ヲ謀リ未タ成ラサル者ハ棒鎖三日ニ

處シ可然哉ノ儀伺

第四條

(東京府)

懲役人使役中重テ罪ヲ犯セシキハ役限二
等ヨリ四等ノ間ニ配算加入可然哉否伺

第五條

(千葉縣)

諸公布ノ内人民得知スヘキ件ハ未決既決
ノ囚人ヘモ讀聞セ可然哉ノ儀ニ付伺

第六條

(椽木縣)

懲役人寫眞ノ儀ニ付伺

第七條

(司法省ヨリ
太政官ヘ伺)

獄舎管理ノ儀ニ付伺

第八條

(福島縣)

獄舎新築ノ儀ニ付伺

第九條

(愛知縣)

懲役場狹少ニ付懲役百日以下ノ男夫ハ管
杖打決致度儀ニ付上申

第十條

(茨城縣)

脱監越獄反獄ノ儀ニ付再伺

第十一條

(司法省ヨリ
正院ヘ伺)

各檻倉内務省管理ノ儀ニ付經費金下渡方
ノ儀伺

第十二條

(神奈川縣)

懲役百日以下囚人管杖實決ノ儀ニ付伺

第十三條

本朝民鑑第二版第六編索引檻獄則ノ部

(滋賀縣) 囚獄懲役場囚徒人員取調ノ儀ニ付伺 四
第十四條

(大坂府) 未決ノ囚人反獄ヲ謀リ未タ成ラサル者處分ノ儀伺

第十五條

(熊谷縣) 未決ノ囚人ニ説教聽聞爲致可然哉否ノ儀伺

第十六條

(熊谷縣) 懲役限内ノ婦女妊娠分娩ノ前後諸入費仕拂方ノ儀ニ付伺

第十七條

(大分縣) 病監新設ノ儀ニ付伺

第十八條

(京都府) 士族ノ子弟ニシテ懲戒ノ爲メ徒場入出願取計方ノ儀ニ付伺

第十九條

(和歌山縣) 不具ノ子弟懲治ノ爲メ入檻セシ者費用ノ儀ニ付伺

第二十條

(大坂府) 懲役滿期ノ者ト雖モ尙惡心峻ラサル者ハ懲治監ニ留置可然哉否ノ儀ニ付伺

第二十一條

(敦賀縣) 官舎ニ於テ禁獄出願ノ者處分方ノ儀ニ付伺

第二十二條

(大分縣) 不良ノ子弟入監ノ義ハ裁判官ノ權限ナル
ヤ又民刑事何ノニ屬スルヤノ儀ニ付伺

第二十三條

(新潟縣) 監獄署周圍ニ點燈設置ノ儀ニ付伺

第二十四條

(師磨縣) 監獄則中囚人書信ノ儀ニ付伺

第二十五條

(神奈川縣) 處刑濟原籍掛合中拘置スル賄費ノ儀ニ付
伺

第二十六條

(長崎縣) 能ク獄則ヲ守リ他囚ノ模範トモナルベキ

第二十七條

(警視廳) 者ニ限リ年限ノ等級ニ拘ラス等級ヲ進メ
可然哉否ノ儀ニ付伺

懲役人學術教授ノ儀法則改正仕度ニ付書
籍買上代金下渡ノ儀ニ付伺

第二十八條

(大坂府) 懲役人ニ面會願出ノ儀ニ付伺

第二十九條

(東京府) 懲役中ノ者ヨリ筆紙墨等差贈ノ儀親戚ニ
通辭願出ニ付可否伺

第三十條

(山梨縣) 懲役人付與金ノ儀ニ付伺

第三十一條

(度會縣) 懲役中逃亡ノ者處分ノ儀ニ付伺

第三十二條

(北條縣) 役囚逃亡ノ儀ニ付伺

第三十三條

(三重縣) 懲役人雇使願出ノ儀ニ付伺

第三十四條

(佐賀縣) 懲役人曠役日數計算方ノ儀ニ付伺

第三十五條

(埼玉裁判所) 役囚逃走探索旅費給與ノ儀ニ付伺

第三十六條

(茨城縣) 驅役ノ爲死傷ニ係ル役囚扶助ノ儀ニ付伺

第三十七條

(警視廳) 懲役人使役方ノ儀ニ付伺

第三十八條

(東京府) 懲役日數計算ノ儀ニ付伺

第三十九條

(福島上等裁判所) 棒鎖ヲ以閤室入ニ換フルノ儀ニ付伺

第四十條

(東京府) 懲役滿期後尙拘置ノ者逃亡ヲ企ツルヲ發覺セシキハ其都度裁判官へ稟告スヘキヤ否ノ儀ニ付伺

第四十一條

(静岡縣) 脱獄扞禦ノ囚人減等ノ儀ニ付伺

第四十二條

(三浦縣) 獄則ヲ守リ工役勉強ノ者半期放免ノ節屆出ノ儀ニ付伺

第四十三條

(千葉縣) 縊死ヲ救援セシ囚人褒賞ノ儀ニ付伺

第四十四條

(神奈川裁判所) 囚人賞與ノ儀ニ付伺

第四十五條

(大坂府) 縊死ノ囚人救援ノ者賞與伺

第四十六條

(佐賀裁判所) 懲役終身處斷濟ノ囚人減等ノ節ハ上等裁判所ノ批可ヲ受ケ處分スヘキヤ否ノ儀ニ

付伺

第四十七條

(磐前縣) 囚人減等ノ儀ニ付伺

第四十八條

(東京裁判所) 同上

第四十九條

(群馬縣) 囚人脱場ヲ企テ未タ脱出セサル前報告スル者等賞與ノ儀ニ付伺

第五十條

(大坂府) 未決囚人ニテ同囚ノ逃走ヲ報告スル等ノ節處分ノ儀ニ付伺

第五十一條

(茨城縣)

獄則逸犯ノ者處分ノ日數ハ役限内ニ算入
スヘキヤ否ノ儀ニ付伺

第五十二條

(東京上等
裁判所)

懲役十年ノ囚人逃走スルハ終身ニ處シ
棒鎖ヲ加ヘスヲ可然哉否ノ儀ニ付伺

第五十三條

(千葉縣)

逃走ヲ企ツル者ヲ報告スルト監外ニ逸出
スル者ヲ差押訴出ル者ト區別ノ儀ニ付伺

第五十四條

(山形縣)

懲役人外役中婦女ニ姦スル者ノ儀ニ付伺

第五十五條

(司法省ヨリ
正院へ伺)

懲役終身ノ者一年以上ノ罪ヲ犯ス節處分

ノ儀ニ付伺

第五十六條

(大阪府)

懲役人獄則ヲ犯シ二罪俱發スル節ハ度毎
ニ罰シ可然哉否ノ儀ニ付伺

第五十七條

(廣島縣)

甲囚伴テ乙囚ノ逃走ニ同意シ後之ヲ報告
スル者處分方伺

第五十八條

(宮城縣)

懲役一年以上ノ囚人逃走ノ儀ニ付處分伺

第五十九條

(廣島縣)

反獄ヲ計リ未タ成サルモノ處分ノ儀ニ付
伺

第六十條

(磐井縣)

懲役人再逃處分ノ儀ニ付伺

第六十一條

(青森縣)

獄丁其管理ノ囚人ヲ逃亡セシメシ節處分ノ儀ニ付伺

第六十二條

(廣島縣)

囚人父母或ハ妻子ニ信書ノ儀ニ付伺

第六十三條

(東京府)

懲役人父母或ハ妻子等寫眞差入ノ儀ニ付伺

第六十四條

(警視廳)

懲役所ニ書類差入ノ儀ニ付伺

第六十五條

(廣島縣)

懲役人使役方法改正ノ儀ニ付伺

第六十六條

(大坂府)

懲役人工錢ノ儀ニ付伺

第六十七條

(島根縣)

懲役人雨具及足部ノ具費用金額仕拂ノ儀ニ付伺

第六十八條

(静岡縣)

懲役人傭工錢ヲ以親族ニ差贈度旨出願ニ付伺

第六十九條

(大坂府)

懲役人書籍買入ノ儀出願ノ儀ニ付伺

第七十條

(神奈川縣)

懲役人食費ノ儀ニ付伺

第七十一條

(埼玉縣)

懲役人使役方ノ儀ニ付伺

第七十二條

(函館裁判所)

處刑濟ノ遺體取扱ノ儀ニ付伺

第七十三條

(警視廳)

司法省裁判所掛懲役人ノ儀ニ付伺

第七十四條

(佐賀縣)

刑死病死ノ遺體下渡方出願ニ付伺

第七十五條

(大坂府)

未決囚病死ノ遺體下渡ノ儀ニ付伺

第七十六條

(東京府)

囚人埋葬地取設並下金ノ儀ニ付伺

第七十七條

(東京府)

懲役人身體衰弱ノ爲メ親戚等ヨリ滋養品

差入ノ儀ニ付伺

第七十八條

(東京府)

懲役人所持金ヲ以テ新律綱領改定律例買

入ノ儀出願ニ付伺

第七十九條

(東京府)

懲役人出役先ニテ疾病ニ罹リタル節ハ其

日ハ休役トナシ可然哉否ノ儀ニ付伺

第八十條

(東京府) 懲役人食用春米ノ小糠明俵外繩共外賣捌代金上納ノ儀ニ付伺

第八十一條

(若松縣) 監獄醫旅費ノ儀ニ付伺

第八十二條

(岡山縣) 斬首劊子ノ儀ニ付伺

第八十三條

(滋賀縣) 鐵山ニ發遣スル役囚休暇日數計算ノ儀ニ付伺

第八十四條

(山梨縣) 懲役所ニ訓導一名雇入ノ儀ニ付伺

第八十五條

(東京府) 反獄防禦ニ盡力セシ者賞與ノ儀ニ付伺

第八十六條

(山梨縣) 懲役所ニ雇入ノ訓導月給ノ儀ニ付伺

第八十七條

(京都府) 懲役人休暇ノ儀ニ付伺

第八十八條

(愛知縣) 同上

第八十九條

(岡山縣) 獄丁ニ等外吏ニ準シ可然哉否ノ儀ニ付伺

第九十條

(山形縣) 囚獄守卒勉勵賞與ノ儀ニ付伺

第九十一條

(島根縣) 懲役人父母祭日休役ノ儀ニ付伺

第九十二條

(大坂府) 懲役人疾病ニ罹リ休暇スル日數ノ日給ハ官費支給可然哉否ノ儀伺

第九十三條

(大坂府) 守卒増員ノ儀ニ付伺

第九十四條

(警視廳) 病囚治療中日數計算方ノ儀ニ付伺

第九十五條

(埼玉縣) 守卒改稱ノ儀ニ付伺

第九十六條

(愛媛縣) 未決已決輕犯保管ノ儀ニ付伺

第九十七條

(飾磨縣) 閩刑禁獄ノ囚逃走及監護人處分ノ儀ニ付伺

第九十八條

(琉球内務省出張所)

懲役百日以下ノ罪犯管狀實斷換用ノ儀ニ付伺

第九十九條

(大坂府)

獄則ニ觸ル、者日數本罪ニ算入スヘキヤ否ノ儀ニ付伺

第一百條

(京都裁判所)

滯獄罪囚日限計算ノ儀ニ付伺

第一百一條

(滋賀縣) 懲役取締ノ者賞與ノ儀ニ付伺

第二百二條

(警視局) 滯獄永遠ノ儀ニ付伺

第二百三條

(千葉縣) 役囚減等ノ儀ニ付伺

第二百四條

(神奈川縣) 同上

第二百五條

(長崎上等
裁判所) 脫獄者處分ノ儀ニ付伺

第二百六條

(廣島縣) 罪囚減等ノ儀ニ付伺

第二百七條

(福嶋裁判所) 脫獄者處分ノ儀ニ付伺

第二百八條

(岡山縣) 守卒以下獄丁等着服ノ儀ニ付伺

第二百九條

(熊谷裁判所) 重病ノ罪囚推問ノ儀ニ付伺

第三百十條

(山口縣) 懲役人違警罪犯ノ節處分ノ儀ニ付伺

第三百十一條

(大坂府) 縊死ヲ救護セシ罪囚減等ノ儀ニ付伺

第三百十二條

(三重縣) 懲役人疾病ノ節食費補ヒ方ノ儀ニ付伺

第三百十三條

(愛知縣) 監獄則圖式中工藝ノ儀ニ付伺
第百十四條

(新潟縣) 懲役人私擅ニ物品ヲ所持スル節官沒方ノ
儀ニ付伺

第百十五條 (兵庫縣) 處刑檢屍ノ儀ニ付伺

第百十六條 (埼玉縣) 懲役人建白書差出ノ儀ニ付伺

第百十七條 (新治縣) 懲役場賄向ノ儀ニ付伺

第百十八條 (青森縣) 懲役人病死之節埋葬費等ノ儀ニ付伺

第百十九條

(神奈川縣) 懲役糧倉等之事務ノ儀ニ付伺
第百二十條

(神奈川縣) 懲役人疾病等ニテ休役ノ節食費等傭工金
ノ内ヨリ仕拂ヘキヤ否ノ儀伺

第百二十一條 (秋田縣) 罪囚保管ノ儀ニ付伺

第百二十二條 (三重縣) 禁獄人沐浴運動ノ儀ニ付伺

第百二十三條 (椽木縣) 懲役人疾病ノ節役限日數計算ノ儀ニ付伺

第百二十四條 本朝民鑑第二版第六編索引監獄則ノ部

(長崎縣) 懲役掛吏員出張ノ節月手當支給方ノ儀ニ付伺

第二百二十五條

(京都府) 懲役人ヨリ佗ノ人ヘ對スル訴訟ノ儀ニ付伺

第二百二十六條

(樫木縣) 懲役場中處刑濟原籍掛合中留置ノ者ニ付伺

第二百二十七條

(新潟縣) 脱籍無産之者懲役滿期ノ節處分ノ儀ニ付伺

第二百二十八條

(島根縣) 懲役人疾病ノ節看病人ノ儀ニ付伺

第二百二十九條

(福岡縣) 逃亡ノ懲役人傭工錢ノ儀ニ付伺

第二百三十條

(三重縣) 第一等ノ懲役人疾病ノ節モ日給々與ノ儀ニ付伺

第二百三十一條

(山形縣) 囚獄舎懲役場等建設費ノ儀ニ付伺

第二百三十二條

(島根縣) 懲役雨具等ノ費用仕拂ノ儀ニ付伺

第二百三十三條

(山梨縣) 既決囚衣服臥具ノ儀ニ付伺

第三百三十四條

(兵庫縣) 處刑檢視ノ儀ニ付伺

第三百三十五條

(新潟縣) 懲役人私擅ノ所持物官沒ノ儀ニ付伺

第二章 懲治檻入並出檻手續

第三百三十六條

(新潟縣) 懲役人懲治檻入ノ逃走ヲ捕獲スル節賞與ノ儀ニ付伺

第三百三十七條

(三浦縣) 懲治檻入ノ者逃走ノ儀ニ付伺

第三百三十八條

(三重縣)

懲治檻入並懲役人等費用ノ儀ニ付伺

第三章 囚人護送及給與規則

第三百三十九條

(大坂裁判所) 檻倉留置ノ者飯費ノ儀ニ付伺

第四百十條

(神奈川縣) 囚人繼送ノ儀ニ付伺

第四百十一條

(廣島縣) 賊徒追捕入費ノ儀ニ付伺

第四百十二條

(和歌山縣) 囚人護送並賄料ノ儀ニ付伺

第四百十三條

本朝民鑑第二版第六編索引懲治檻入并出檻手續
本朝民鑑第二版第六編索引囚人護送及給與規則

(京都府) 囚人賄料給與細目規則ノ儀ニ付伺

第四百四十四條

(熊谷縣) 宿村送リ費用ノ儀ニ付伺

第四百四十五條

(山形縣) 囚人賄料ノ儀ニ付伺

第四百四十六條

(新川縣) 同上

第四百四十七條

(石川縣) 處刑濟送致ノ者賄料ノ儀ニ付伺

第四百四十八條

(豐岡縣) 外役着用衣服ノ儀ニ付伺

第四百四十九條

(岐阜縣) 親屬等へ責付保管ノ者食費藥代等ノ儀ニ付伺

第四百五十條

(小田縣) 囚人賄料ノ儀ニ付伺

第四百五十一條

(濱田縣) 親族隣保ニ責付ノ者食費ノ儀ニ付伺

第四百五十二條

(熊谷縣) 私宅獄廻ノ儀ニ付伺

第四百五十三條

(水澤縣) 責付ノ者食費ノ儀ニ付伺

第四百五十四條

(山梨縣) 賊徒旅店ニ數日潜居セシ者其宿料拂方ノ儀ニ付伺

第五百五十五條

(度會縣) 囚人雇役出願ノ儀伺

第五百五十六條

(三重縣) 私宅禁獄ノ儀ニ付伺

第五百五十七條

(青森縣) 同上

第五百五十八條

(熊谷裁判所) 責付ノ者賄料ノ儀ニ付伺

第五百五十九條

(廣嶋縣) 禁獄ノ者賄料ノ儀ニ付伺

第六百六十條

(三重縣) 囚人被服并賄料ノ儀ニ付伺

第六百六十一條

(山梨縣) 囚人遞送入費ノ儀ニ付伺

第六百六十二條

(東京府) 囚人留置中賄料ノ儀ニ付伺

第六百六十三條

(警視廳) 出火セシ者送付ノ儀ニ付伺

第六百六十四條

(千葉縣) 犯罪人海路護送ノ儀ニ付伺

第六百六十五條

(和歌山縣) 閩刑禁獄ノ婦女ニ支給米ノ儀ニ付伺

第六百六十六條

(茨城縣) 警察署ニ拘留ノ者賄料ノ儀ニ付伺

大朝民鑑第二版第六編索引囚人護送及給與規則ノ部

第六十七條

(司法省ヨリ
大政官ヘ伺)

禁獄ノ罪囚賄料ノ儀ニ付伺

第六十八條

(滋賀縣)

警察上拘留ノ者賄料ノ儀ニ付伺

第六十九條

(三瀨縣)

懲治檻入ノ者食費等支辨ノ儀ニ付伺

第七十條

(新潟縣)

監倉拘留ノ者賄料ノ儀ニ付伺

第七十一條

(宮城縣)

病囚食料ノ儀ニ付伺

七十二條

(筑摩縣)

警保課警部事務ノ儀ニ付伺

第七十三條

(大坂府)

町村會議所へ差置禁獄者賄費ノ儀ニ付伺

第七十四條

(三重縣)

行旅ノ者路金ノ消盡ヨリ救護願出ノ節取

扱ノ儀ニ付伺

第七十五條

(埼玉縣)

外國人拘留ノ節食料ノ儀ニ付伺

第七十六條

(岩手縣)

民事訴訟ニテ拘引ノ者食費ノ儀ニ付伺

第七十七條

(千葉縣)

民事訴訟召換ニ應セサル者拘引ノ節途中

賄費ノ儀ニ付伺

第七十八條

(堺 縣) 處刑濟遞送ノ途中看護人逃走ヲ覺ラサル
節處分ノ儀ニ付伺

第七十九條

(埼玉縣) 處刑濟ノ者所持物渡漏ノ節原籍へ回送入
費ノ儀ニ付伺

第八十條

(茨城縣) 懲役人孩兒ヲ携へ入監ノ儀ニ付伺

第八十一條

(仙臺裁判所) 犯罪人受取方ノ儀ニ付伺

第八十二條

(長野縣) 處刑濟三日間上告思考中賄費ノ儀ニ付伺

第八十三條

(山形縣) 囚人臥具加給ノ儀ニ付伺

第八十四條

(滋賀縣) 處刑濟ノ者戸長へ引渡迄ノ賄料ノ儀ニ付伺

第八十五條

(神奈川縣) 處刑濟ノ者原籍掛合中ノ賄料仕給方ノ儀
ニ付伺

第八十六條

(高知縣) 遞送途中逃亡ノ者諸費償却ノ儀ニ付伺

第八十七條

(鳴根縣) 囚人護送ノ節逃走セシメシ者處分ノ儀ニ
付伺

第百八十八條

(三重縣) 處刑濟護送ノ途中逃走スルヲ覺ラサル者
處分ノ儀ニ付伺

三八

第百八十九條

(神奈川縣) 拘留ノ罪囚食費等ノ儀ニ付伺

第百九十條

(千葉縣) 決放等ノ者歸途ノ旅費操替貸渡ノ儀ニ付伺

第四章 逃亡人々相書々式

第百九十一條

(静岡縣) 華士族逃亡處分ノ儀ニ付伺

第百九十二條

(神奈川縣) 犯罪人原籍記載方ノ儀ニ付伺

第百九十三條

(福岡縣) 囚徒逃亡ノ儀ニ付伺

第五章 獄事計表編製手續

第百九十四條

(大坂府) 贖罪ニ處スヘキ者赤貧贖ヒ難キ節禁獄處
分ノ儀ニ付伺

第百九十五條

(神奈川縣) 獄事計表調製方ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版第六編索引逃亡人々相書々式ノ部
本朝民鑑第二版第六編索引獄事計表編製手續ノ部

三九

第六章 罪案書式

第九十六條

(司法省ヨリ 大政官ヘ伺) 罪案書式ノ儀ニ付伺

第九十七條

(長崎上等 裁判所) 犯罪諸表取調ノ節裁判不當發見スルモ處分ノ儀ニ付伺

第九十八條

(橡木裁判所) 伊藤留五郎犯罪一件巡回裁判所ヘ差出ノ儀ニ付伺

第九十九條

(節磨縣) 罪囚鞠問等ノ節警察官列席ノ儀ニ付伺

第二百條

(長崎上等 裁判所)

死刑見込ノ者罪案檢事局ヘ差出ノ節取調ノ儀ニ付伺

第二百一條

(長崎裁判所) 罪人擬律案檢事ヘ照會ノ儀ニ付伺

第二百二條

(大坂上等 裁判所) 罪案擬律案等檢事ヘ差出ノ儀ニ付伺

第二百三條

(新潟裁判所) 裁判官私罪ヲ犯セシ節本省ヘ具申ノ儀ニ付伺

第二百四條

(東京上等 裁判所) 罪案書式中承審官吏氏名登記ノ儀ニ付伺

第二百五條

本朝民鑑第三版第六編索引罪案書式ノ部

(三重縣) 罪案收板ノ儀ニ付伺

第二百六條

(宮城上等裁判所) 死罪ニ當ルヘキモノ求刑方ノ儀ニ付伺

第二百七條

(東京上等裁判所) 罪案書式中職業記載方ノ儀ニ付伺

第二百八條

(三階縣) 贖造金ノ犯人擬律方ノ儀ニ付伺

第二百九條

(鶴岡裁判所) 罪案書式ノ儀ニ付伺

第七章 警察出張所設置方

第二百十條

(小倉縣) 警察日月報表調製ノ儀ニ付伺

第二百十一條

(敦賀縣) 邏卒屯所并出張所へ止宿ノ者宿代賜方ノ儀ニ付伺

第二百十二條

(三階縣) 警察費仕拂方ノ儀ニ付伺

第二百十三條

(岐阜縣) 民費ヲ以テ取設ノ邏卒稱呼ノ儀ニ付伺

第二百十四條

(岩手縣) 警察出張所人員割ノ儀ニ付伺

第二百十五條

本朝民鑑第二版第六編索引警察出張所設置方ノ部

(京都府) 月報表ノ儀ニ付伺

第二百十六條

(愛媛縣) 警察出張所移轉ノ節旅費支給方ノ儀ニ付伺

第二百十七條

(山梨縣) 警察出張所ニ新聞紙差回方ノ儀ニ付伺

第二百十八條

(三重縣) 警察所修繕入費ノ儀ニ付伺

第二百十九條

(宮城縣) 警察出張所地種ノ儀ニ付伺

第二百二十條

(三重縣) 警部巡查當番非番記載方ノ儀ニ付伺

第二百二十一條

(滋賀縣) 警察署遠隔ノ地ニテ報急傳令等ノ儀ニ付伺

伺

第二百二十二條

(愛知縣) 警察出張所ニ備付ノ物品破損ノ節賣却ノ儀ニ付伺

儀ニ付伺

第二百二十三條

(三重縣) 警察署遠隔ノ所宿泊所取設ノ儀ニ付伺

第二百二十四條

(静岡縣) 警察署同分署長定方ノ儀ニ付伺

第八章 巡查召募規則并檢査表名簿式

第二百二十五條

本朝民鑑第二版第六編索引巡查召募規則并檢査表名簿式ノ部

(愛媛縣) 一寺住職ノ者選卒ニ採用ノ儀ニ付伺

第二百二十六條

(和歌山縣) 巡查召募年齡ノ儀ニ付伺

第二百二十七條

(磐前縣) 巡查採用方ノ儀ニ付伺

第二百二十八條

(兵庫縣) 巡查父兄ノ疾病ニ因リ解職ノ儀ニ付伺

第二百二十九條

(神奈川縣) 滿二十年以下ノ者巡查ニ採用ノ儀ニ付伺

第二百三十條

(茨城縣) 警察月報表罪犯捕拿等ノ儀ニ付伺

第二百三十一條

(青森縣) 警視廳巡查徵兵相當者處分方ノ儀ニ付伺

第二百三十二條

(静岡縣) 警視廳巡查徵兵免役ノ儀ニ付伺

第九章 警部巡查給與規則

第二百三十三條

(埼玉縣) 巡查犯罪ノ節處分ノ儀ニ付伺

第二百三十四條

(石川縣) 選卒旅費日當ノ儀ニ付伺

第二百三十五條

(磐前縣) 選卒巡回旅費ノ儀ニ付伺

第二百三十六條

本朝民鑑第二版第六編索引警部巡查給與規則ノ部

(新潟縣) 巡查持區內巡回日當ノ儀ニ付伺

第二百三十七條

(鹿兒島縣) 邏卒給料并捕亡費等常備金ニテ支拂方ノ

儀ニ付伺

第二百三十八條

(足柄縣) 巡查制服徽章ノ儀ニ付伺

第二百三十九條

(新潟縣) 巡查滿年賜金ノ儀ニ付伺

第二百四十條

(愛知縣) 警察所増置ニ付布告達類増減ノ儀ニ付伺

第二百四十一條

(埼玉縣) 警察費支拂方ノ儀ニ付伺

第二百四十二條

(千葉縣) 警部月給警察費ヨリ支拂ノ儀ニ付伺

第二百四十三條

(新潟縣) 巡查被服靴提燈手帖等支給方ノ儀ニ付伺

第二百四十四條

(岩手縣) 警部巡查旅費并巡回費ノ儀ニ付伺

第二百四十五條

(宮城縣) 巡查ヨリ等外吏へ轉役ノ者給與方ノ儀ニ

付伺

第二百四十六條

(秋田縣) 巡查旅費日當増給ノ儀ニ付伺

第二百四十七條

本朝民鑑第二版第六編索引警部巡查給與規則ノ部

(茨城縣) 警察課雇ノ者月俸支給方ノ儀ニ付伺

第二百四十八條

(若松縣) 警部巡查轉免ノ節月俸渡方ノ儀ニ付伺

第二百四十九條

(愛知縣) 巡查ヨリ縣官ニ轉任ノ節滿年賜金ノ儀ニ

付伺

第二百五十條

(鶴岡縣) 巡查夏服支給方ノ儀ニ付伺

第二百五十一條

(滋賀縣) 巡查辨當料支給方ノ儀ニ付伺

第二百五十二條

(若松縣) 巡查ノ桐油渡方ノ儀ニ付伺

第二百五十三條

(飾磨縣) 巡查病氣引籠中月給支給方ノ儀ニ付伺

第二百五十四條

(愛知縣) 巡查給與規則中疑儀ノ件ニ付伺

第二百五十五條

(滋賀縣) 警部巡查給與規則中第十三條ノ儀ニ付伺

第二百五十六條

(島根縣) 他縣ノ巡查採用ノ儀ニ付伺

第二百五十七條

(新潟縣) 東京府所轄ノ節ヨリ引繼ノ巡查滿年賜金

ノ儀ニ付伺

第二百五十八條

(宮城縣) 十八 巡查旅費支給方ノ儀ニ付伺

第二百五十九條

(筑摩縣)

巡查被服保存期限ノ儀ニ付伺

第二百六十條

(師磨縣)

巡查辨當料ノ儀ニ付伺

第二百六十一條

(名東縣)

轉任ノ巡查勤續年數通算ノ儀ニ付伺

第二百六十二條

(島根縣)

巡查給與規則第十條ノ儀并巡查被服等ノ

第二百六十三條

第二百六十三條

(神奈川縣)

巡查給與品保存期限ノ儀ニ付伺

第二百六十四條

(新潟縣)

靴墨刷毛等巡查ノ支給ノ儀ニ付伺

第二百六十五條

(愛媛縣)

巡查月俸階級ノ儀ニ付伺

第二百六十六條

(山口縣)

變死傷者有之節醫員診察料等之儀ニ付伺

第二百六十七條

(天分縣)

警察官吏六里未滿ノ地ニ出張ノ節旅費ノ

第二百六十八條

(愛媛縣)

巡查ノ筆墨料支給ノ儀ニ付伺

第二百六十九條

(新川縣) 邏卒宿料ノ儀ニ付伺

第二百七十條

(大坂府) 職務上負傷ノ巡査扶助ノ儀ニ付伺

第二百七十一條

(愛知縣) 警部巡査制服ノ儀ニ付伺

第二百七十二條

(三重縣) 巡査ニ支給品手帖其外取扱方ノ儀ニ付伺

第二百七十三條

(飾磨縣) 巡査病氣引ノ節月俸支給ノ儀ニ付伺

第二百七十四條

(福岡縣) 警察費中ヨリ巡査月給支拂方ノ儀ニ付伺

第十章 警察費勘定帳離形

第二百七十五條

(兵庫縣) 警察費支拂方ノ儀ニ付伺

第二百七十六條

(度會縣) 警察費定額被達ニ付官民費區分支拂ノ儀

ニ付伺

第二百七十七條

(濱田縣) 巡査サ一ヘルノ儀ハ警察費遣拂豫算内譯

表中箇條無之儀ニ付伺

第二百七十八條

(大坂府) 警察費勘定帳再調ニ付警部巡査等名稱ノ

儀ニ付伺

本朝民鑑第二版第六編索引警察費勘定帳離形ノ部

第二百七十九條

(新川縣) 警察費遣拂豫算取調方ノ儀三付伺

第二百八十條

(京都府) 警察事務ノ吏員賞賜金支出方ノ儀ニ付伺

第二百八十一條

(石川縣) 警察費出納勘定組進達方ノ儀ニ付伺

第二百八十二條

(新川縣) 邏卒門番等宿代警察費以申取仕拂方ノ

第二百八十三條

(神奈川縣) 遺失四追捕ニ係ル旅費警察費ヲ以テ支拂方

第二百八十四條

(神奈川縣) 警察費遣拂豫算内譯表等御達ニ付實際差

第二百八十五條

(茨城縣) 警察費中ニ民費ヲ加テ巡查増置方儀ニ付

第二百八十六條

(樺木縣) 警察費勘定組方儀ニ付伺

第二百八十七條

(敦賀縣) 懲役入看護以邏卒ニ宿代等賜方ノ儀ニ付

第二百八十八條

(新川縣) 警察費出納勘定組進達方ノ儀ニ付伺

第二百八十九條

(石川縣) 警察費出納勘定組進達方ノ儀ニ付伺

第二百九十條

(石川縣) 警察費出納勘定組進達方ノ儀ニ付伺

(三重縣) 警察所修繕費支拂方ノ儀ニ付伺

第二百八十九條

(千葉縣) 警部月給警察費ヨリ支拂ノ儀ニ付伺

第二百九十條

(茨城縣) 警察費額内ニ民費ヲ加ヘ巡查増置ノ儀ニ

付伺

第二百九十一條

(島根縣) 囚人追捕ニ係ル旅費警察費ヨリ支拂ノ儀

ニ付伺

第二百九十二條

(愛知縣) 警察所ニ備付ノ物品破損賣却代金取扱ノ

儀ニ付伺

第二百九十三條

(三重縣) 囚人移轉ノ節護送ノ者旅費ノ儀ニ付伺

第二百九十四條

(愛知縣) 警察署ヨリ發スル郵便并電信料支拂方ノ

儀ニ付伺

第二百九十五條

(島根縣) 警察署ニ於テ浴湯ノ費用警察費ヨリ支拂

ノ儀ニ付伺

第二百九十六條

(三重縣) 警察官吏物品及ハ書籍等警察費ノ中ニ寄

附ノ儀ニ付伺

第二百九十七條

本朝民鑑第二版第六編索引警察費勘定帳雛形ノ部

(石川縣) 警察所トシテ借上ケノ民屋修繕費ノ儀ニ付伺

第二百九十八條 警察出張所設置箇所并人員等ノ儀ニ付伺

(廣島縣) 裁判所ニ求刑迄ノ囚人ノ諸入費警察費ニ付伺

第三百條 巡査ニ宿直辨當料支給ノ儀及警察所ニ於

新聞購求ノ儀ニ付伺

第三百二條 巡査辨當料ノ儀ニ付伺

(福島縣) 巡査辨當料ノ儀ニ付伺

第三百二條

(岩手縣) 警察所ニ呼出ノ後無罪ニ歸シ放免ノ者旅費ノ儀ニ付伺

第三百三條

(愛知縣) 巡査ノ誤認ニ係リ負傷セラシキ者療治料支出方ノ儀ニ付伺

第三百四條 街路取締規則

(福島縣) 榜示立換入費ノ儀ニ付伺

(滋賀縣) 並木伐採ノ儀ニ付伺

第三百六條

(敦賀縣) 標柱へ東西兩京距離記載ノ儀ニ付伺

第三百七條

(三重縣) 道路掃除費賦課ノ儀ニ付伺

第三百八條

(滋賀縣) 道幅取擴ノ儀ニ付伺

第三百九條

(大分縣) 路道開設ノ儀ニ付伺

第三百十條

(水澤縣) 道路變更ノ儀ニ付伺

第三百十一條

(熊谷縣) 民費ヲ以テ道路開設ノ儀ニ付伺

第三百十二條

(足柄縣) 新道附替橋錢取立ノ儀ニ付伺

第三百十三條

(渡會縣) 道幅取廣ケノ儀ニ付伺

第三百十四條

(愛知縣) 馬車人力車等賦金ノ儀ニ付伺

第三百十五條

(大坂府) 民有地道路開設ノ儀ニ付伺

第三百十六條

(東京府) 私有地道路ノ儀ニ付伺

第三百十七條

(神奈川縣) 道路橋梁入費消却ノ爲メ橋錢取立ノ儀ニ付伺

大朝民鑑第二版第六編索引街路取締規則ノ部

第三百十八條

(青森縣) 橋梁營繕費ノ儀ニ付伺

第三百十九條

(大分縣) 道路幅員ノ儀ニ付伺

第三百二十條

(島根縣) 往來ノ障礙トナルヘキ木石取除入費ノ儀ニ付伺

第三百二十一條

(新潟縣) 道路敷地貸渡ノ儀ニ付伺

第十二章 消防規則

第三百二十二條

(滋賀縣) 消防組死傷扶助ノ儀ニ付伺

第三百二十三條

(滋賀縣) 消防組賞與并扶助ノ儀等伺

第三百二十四條

(佐賀縣) 消防組負傷死扶助ノ儀ニ付伺

第三百二十五條

(宮城縣) 消防具購求ニ付別途下金ノ儀ニ付伺

第三百二十六條

(新潟縣) 警部非常ノ節目標定方ノ儀ニ付伺

第三百二十七條

本朝民鑑第二版第六編索引消防規則ノ部

(岩手縣) 自費ヲ以テ消防機械ヲ備付セシ者賞與ノ儀ニ付伺

第十三章 官地拜借心得

第三百二十八條

(岩手縣) 川海拜借ノ儀ニ付伺

第三百二十九條

(新治縣) 河海湖沼等ヨリ生ズル動植物諸税ノ徵ニ付伺

付伺

第三百三十條

(足柄縣) 二嶋立澤舊蹟地拜借ノ儀ニ付伺

第三百三十一條

(兵庫縣) 官地拜借料ノ儀ニ付伺

第三百三十二條

(岩手縣) 官有地并建物拜借ノ儀ニ付伺

第三百三十三條

(長崎縣) 五ヶ年期縮綱代許可營業ノ儀ニ付伺

第三百三十四條

(茨城縣) 官地池沼ニ於テ獵獲ノ鳥類収料ノ儀ニ付伺

第三百三十五條

(岩手縣) 官地拜借年期ノ儀ニ付伺

第三百三十六條

(山口縣) 官有地拜借料ノ儀ニ付伺

第三百三十七條

(大坂府) 濱地貸渡府稅徵收ノ儀ニ付伺

第三百三十八條

(鳥取縣) 海岸地ニ樹木植付ノ儀ニ付伺

第三百三十九條

(神奈川縣) 官有地轉借ノ儀ニ付伺

第三百四十條

(京都府) 諸川拜借ノ儀ニ付伺

第三百四十一條

(三瀨縣) 官有山地拜借ノ儀ニ付伺

第三百四十二條

(神奈川縣) 吉田新田埋地拜借ノ儀ニ付伺

第三百四十三條

(愛媛縣) 官地拜借料徵收期限ノ儀ニ付伺

第三百四十四條

(宮城縣) 捕魚採藻ノ爲河海拜借ノ儀ニ付伺

第三百四十五條

(東京府) 河岸地拜借ノ儀ニ付伺

第三百四十六條

(千葉縣) 捕魚採藻ノ爲海面拜借ノ儀ニ付伺

第三百四十七條

(三重縣) 官有拜借地區入費ノ儀ニ付伺

第三百四十八條

(東京府) 河岸地規則中疑義ノ件々ニ付伺

第三百四十九條

本朝民鑑第二版第六編索引官地拜借心得ノ部

(山口縣) 官有地借地料厘位未滿ノ分收入ノ可否伺

第三百五十條

(東京府) 河岸地ノ儀ニ付伺

第三百五十一條

(岐阜縣) 堤防諸色藏借地料賦課ノ儀ニ付伺

第三百五十二條

(神奈川縣) 官地拜借料怠納者處分ノ儀ニ付伺

第三百五十三條

(東京府) 淺草寺上知跡地々料ノ儀ニ付伺

第三百五十四條

(兵庫縣) 社寺境内地貸渡ノ儀ニ付伺

第三百五十五條

(東京府) 神社境内神官借地料ノ儀ニ付伺

第十四章 部分木仕付條例

第三百五十六條

(高知縣) 松木植付ノ儀ニ付伺

第十五章 紅茶製方傳習規則

第三百五十七條

(山梨縣) 紅茶製方傳習規則中疑義ノ件々ニ付伺

本朝民鑑第二版第六編索引部分木仕付條例ノ部
本朝民鑑第二版第六編索引紅茶製方傳習規則ノ部

第十六章 地籍編纂手續

第三百五十八條

(和歌山縣) 地籍取調帳離形ノ儀ニ付伺

第三百五十九條

(茨城縣) 地籍編纂調査ノ爲メ、官員派出ニ付心得方

第三百六十條

(山梨縣) 地籍編纂調査員派出猶豫ノ儀ニ付伺

第三百六十一條

(宮城縣) 地籍帳取調離形中疑義ノ件ニ付伺

第三百六十二條

(足柄縣) 同上

第三百六十三條

(山形縣) 地籍編纂ニ付地理山川等ノ實況順序ノ儀

第三百六十四條

(秋田縣) 地籍編纂ニ付取調方ノ儀ニ付伺

第三百六十五條

(宮城縣) 地籍編纂離形中疑義ノ件伺

第三百六十六條

(橡木縣) 地籍編纂ニ付秣場荒蕪地官民區別ノ儀ニ

第三百六十七條

(磐前縣) 地籍帳離形中道路溝渠堤塘等反別取調ノ

第三百六十八條

(埼玉縣) 地誌編輯例中第二號郡誌ノ儀ニ付伺

第三百六十九條

(長野縣) 地籍編纂着手順序ノ儀ニ付伺

第三百七十條

(山梨縣) 地誌編輯着手方法ノ儀ニ付伺

第三百七十一條

(埼玉縣) 地誌編輯ニ付測量ノ儀伺

第三百七十二條

(宮城縣) 地籍編纂着手ノ儀ニ付伺

第三百七十三條

(宮城縣) 地籍編纂着手ノ儀ニ付伺

第三百七十四條

(濱田縣) 地圖取調ニ付測量官吏派出ノ儀ニ付伺

第三百七十五條

(埼玉縣) 宿町村ノ改稱管轄ノ沿革等新編武藏風土記ニ據テ取調ノ儀伺

第三百七十六條

(置賜縣) 地籍編纂ニ付官民有地畦畔區別ノ儀ニ付伺

第三百七十七條

(宮城縣) 地籍編纂ニ付地種名稱ノ儀ニ付伺

第三百七十八條

(宮城縣) 地籍編纂ニ付地種名稱ノ儀ニ付伺

第三百七十九條

(宮城縣) 地籍編纂ニ付地種名稱ノ儀ニ付伺

第十七章 旅費定則

第三百七十七條

(水澤縣) 地理寮官員出張ノ者ハ手當金被下ノ儀ニ付伺

第三百七十八條

(埴玉縣) 警部ノ事務ヲ補助スル等外吏旅費ノ儀ニ付伺

第三百七十九條

(警井縣) 仁木政信旅費ノ儀ニ付伺

第三百八十條

(滋賀縣) 門番并金庫番守卒等旅費ノ儀ニ付伺

第三百八十一條

(愛媛縣) 巡查拜命移轉ノ節郷里ニアツテ發病辭職スルモノ旅費ノ儀ニ付伺

第三百八十二條

(磐前縣) 邏卒巡回旅費ノ儀ニ付伺

第三百八十三條

(石川縣) 邏卒旅費ノ儀ニ付伺

第三百八十四條

(三重縣) 囚人護送ニ係ル旅費仕拂方ノ儀ニ付伺

第三百八十五條

(三重縣) 警部旅費給與方及ヒ區内巡回旅費仕給方ノ儀伺

第三百八十六條

本朝民鑑第二版第六編索引旅費定則ノ部

(神宮司廳)

神官管内旅費仕給方ノ儀伺

第十八章 陸軍武官恩給令
第三百八十七條

(岡山縣) 官廳工事ニ使役スル者死傷ノ節扶助料仕給方ノ儀伺

第三百八十八條

(福岡縣) 佐賀縣賊徒征討ノ際傷痍者療費額外常費任拂方ノ儀伺

第三百八十九條

(島根縣) 廣島鎮臺ニ於テ一等症甲症ニ罹ル者扶助米下渡方ノ儀伺

第十九章 官舎貸渡規則

第三百九十條

(京都府) 邏卒宿代賜方ノ儀伺

第三百九十一條

(青森縣) 官吏宿代賜リ方廢止ノ儀ニ付伺

第三百九十二條

(宮城縣) 官員ニ貸渡官舎處分ノ儀ニ付伺

第三百九十三條

(山形縣) 地方廳費及官舎建築費等ノ内民費ニ賦課ノ儀ニ付伺

第三百九十四條

(神奈川縣) 官舎貸渡規則第六條ノ儀ニ付伺

本朝民鑑第二版第六編索引陸軍恩給令ノ部
大朝民鑑第二版第六編索引官舎貸渡規則ノ部

本朝民鑑第二版

福鎌隆彦編纂

第六編

第一章 監獄則

第一條

明治七年十二月十三日
山形縣ヨリ司法省へ伺

本年十二月二日附テ以テ懲役十年所決ノ者役表一等三
年中既ニ一年ヲ役過シ逃走スル者云々和同候處懲役十
年ノ囚一等役ニ進ム六七年ヲ經過セカレハ能ハス戊辰
大赦後新律頒布前ノ犯人ニテ之ヲ現今ノ役法ニ貼斷ス
ル者ト雖モ未ダ七年ニ滿ル者ナシ然ルニ伺面ニテハ云
々懲役表ノ年限ヲ誤解セシニハアラサルヤ其次第詳細

監獄則

取調再ヒ可伺出旨本月二日御指令ノ趣承知仕候右ハ全
 ノ誤解仕候儀ニ無之且即今該犯有之候儀ニモ無之候得
 共工錢給與ノ儀豫テ御規則奉伺度左ニ相伺候也
 假令ハ懲役十年處決ノ者役表一等三年中既ニ一年ヲ
 役過シ逃走スル者其役スル一年中ノ工錢、給與ノ錢ツ
 並製作スル物品ヲ販賣シ毎日ノ食費ヲ除キ其殘金ヲ
 官ニ領置スル分私有物ト見做シ百日ヲ過キ縛ニ就カ
 サルトキハ明治六年第三十三號御布告ノ通取計可然
 手

(指令)

一年ヲ過キ捕ニ就カサル者ハ六年第三十三號御布告ニ
 依リ處分ス可シ

第二條

明治八年十二月廿五日
 高知縣ヨリ司法省ヘ伺

今般當縣ニ裁判所被置裁判官派出ノ旨本月十三日付ヲ
 以テ正院ヨリ御達ニ依リ從前聽訟課ニ於テハ聽斷事務
 一切差扣罷在候ニ付右官員早々出張相成度上申候也

(指令)

書面ノ趣訟獄事務官員出張候迄ハ從前ノ通可取扱ハ勿
 論ノ事ト可相心得候事

第三條

明治八年二月十日大
 坂府ヨリ司法省ヘ伺

未決ノ囚人反獄ヲ謀リ既ニ監獄ヲ毀損シ未ダ逃走セサ
 ル者御省日誌昨明治七年第六十四號新潟縣伺御指令ニ

監獄則

反獄シテ成ラサル者ハ棒鎖三日ニ處スト有之當府ニ於
テモ右御指令ノ通相心得候テ可然哉
右反獄ヲ企ルト雖モ未タ監獄毀損スルニ至ラサル内發
覺スル者ハ如何處分致シ可然哉相伺候也

(指令)

第一條 伺ノ通

第二條 反獄ノ形狀明白ナレハ監獄ヲ毀損スル否ヲ問
ハス棒鎖三日ニ科ス

第四條

明治八年二月二十八日
東京府ヨリ司法省ヘ伺

懲役一年ヨリ終身ニ至ル其初五等役ハ監獄則一體ニ一
百日ト定ルハ之レ難役ナルヲ以テノ事ナラン依テ使役

中重テ罪ヲ犯シ加役スル者ハ役限二等ヨリ四等ノ間ヘ
配算加入致シ可然哉此段相伺候也

(指令)

役限内重テ罪ヲ犯シ拘役スル者ハ更ニ五等ノ役ニ服サ
シムヘシ

但原役中工藝熟達シ或ハ本來能技アル者ノ如キハ五
等ノ役ヲ經過セシ後獄司ノ處分ニ委ヌ可シ

第五條

明治八年六月二日千
葉縣ヨリ内務省ヘ伺

官省御布告達及縣廳布達等是迄未決囚人ニハ下布不致
候處今般第九十三號御布告控訴上告手續第四章刑事上
告ノ事ノ如キハ現在ノ未決囚人ニ布達不致候ヲハ各自

監獄則

上告ヲ爲スノ權利アルヲ知ラス打過可申ト存候間宣
讀會得爲致度因テハ自今一般ノ公布人民知得スヘキ件
ハ總テ未決既決囚人ヘモ其掛吏員ヨリ讀聞カセ候様致
度相伺候也

(指令)

書面伺ノ通

第六條

明治八年八月十三日
木縣ヨリ内務省ヘ伺

當縣懲役人終身ヨリ三年以上處刑ノ者現今百二十四名
有之本年七月一日ヨリ御省三十九號御達ニ遵行致シ候
ニ付テハ右人員寫眞致置逃走其他非常ニ見合申度右入
費ハ別途御渡方可相成哉

同斷役囚休暇ノ儀監獄則第十二條ニ照準候テハ強風雨
等ノ休日モ有之日數相嵩候ニ付一月三日程ツ、使役
差免シ可申哉相伺候也

(指令)

書面第一條ノ趣ハ監獄則一般御施行ノ運ヒニ相成候迄
其儀ニ不及候事

第二條 伺ノ通

第七條

明治八年九月二十三日
司法省ヨリ太政官ヘ伺

監倉取扱ノ儀ニ付嘗テ試ニ英佛兩國ノ振合ヲ尋ヌルニ
苟クモ獄舎ノ名アル者ハ一般ニ内務卿之ヲ總括シ行政
警察ノ權任ヲ有セシ各廳ヘ代理セシメ一切ノ取扱ヲ委

監獄則

子候例ニ有之尤佛國ニ於テハ未決已決而獄舎共内務司法ニ關係シ一般ノ獄則チ補正スル如キハ而卿協議ノ之
 カ案ヲ作り以テ政府ニ伺フ事ニ候尤司法卿ノ職務ハ未
 決犯ニ始リ已決犯ニ終ル者ナルカ故ニ檢事ニ命シ別シ
 テ未決獄ヲ查察セシムル事ニ候是固ヨリ彼レヲ以テ一
 概ニ我レニ因擬ス可カラサルハ論ヲ不俟所ニ候ヘトモ
 現今諸職官ノ權限ヲ整齊セラレ自然彼國ノ憲典ト偶合
 スル者アリ因テ相考候ニ是迄當省構内及各裁判所附ノ
 監倉ハ以後内務省ニテ総括スヘキ様相成候ハ、體裁モ
 相立且事務ノ都合モ甚以便宜可相成ト存候就テハ監倉
 修警查察規則御布達案共取調上申致候條御詮議ノ上御
 裁制ニ相成ルニ於テハ當省構内ノ監倉ニ警視廳其他ハ

裁判所有之地方官ニ引渡シ候様可致尤監倉ニ係ル一切
 ノ費金並ニ修警掛リ判任官以下ノ人員等ハ内務省ニ協
 議ノ上今後管理致候各廳ニ引渡方可取計存候仍テ別紙
 御布告案並監倉修警查察規則之相添此段相伺候也

(指令)

伺ノ趣ハ可聞届候條規則並受渡シ手續等内務省ニ協議
 ノ上更ニ可伺出候事

第八條

明治八年四月二日福
 島縣ヨリ司法省ニ伺

當縣在來監獄ノ儀ハ規模狭少且追々破壊難穢候ニ付專
 ラ新築ノ見込ニ有之候然ルニ右製造ノ儀ニ付テハ豫テ
 監獄圖式御頒布ノ事ニ有之且此程禁獄舎ノ儀相伺候砌

監獄則

モ可成丈右圖式ニ倣造可致トノ御指令ニ候へ共右ハ極
高大ノ製方ニテ縣地柄當時不相當ニモ相見去迎其構造
一端而已チ摸擬スル譯ニハ難至ニ付彼是折衷チ加へ別
紙圖面之ノ通目論見候條右ニテ御差支ハ有之間敷哉尤
建築委細ノ儀ハ內務省へ可伺出答ニ候へ共前御指令ノ
次第モ有之儀ニ付此段一應相伺候也

(指令)

獄舎新築ノ儀伺ノ通造營致シ差支無之事

但周圍牆屏ノ制別紙ニ記載無之候へ共堅牢ニシテ險
越スヘカラサル様注意スヘシ

第九條

明治九年四月二十一日
愛知縣ヨリ司法省へ伺

當縣下徵役場ノ儀ハ是迄名古屋三ツ倉ト唱へ候所ニ一
ヶ所有之右ハ舊藩米倉取締ヒ一時設置候者ニテ何分狹
少且ツ卑濕ノ地ニシテ方今既ニ四百余名ノ罪囚ニ及ヒ
時下追々暑氣ニ向ヒ此末多囚ヲ鳩入候テハ健康ヲ害シ
間々病斃ノ憂ヒ有之ニ付テハ却テ恩惠ノ御趣意ニモ協
ハサル儀ト相考候條追テ監獄則ノ通役場出來候迄暫シ
懲役百日以下ノ男夫ハ管仗打決ノ施行致シ候様致シ度
此段及上申候也

(指令)

不得已ニ於テハ當分ノ内伺ノ通

第十條

明治九年五月六日
城縣ヨリ司法省へ伺

監獄則

先般既監越獄反獄ノ儀ニ付書類繪圖面ヲ以テ相伺候所
監獄ノ門監獄ノ牆ト心得ヘシト御指令第三十四號之レ
アリ然ル處繪圖面ニ對較仕候ヘハ右監獄ノ門トハ監獄
ノ房口監獄ノ牆トハ監獄ノ柵欄ニ該リ候哉又ハ外郭ノ
門(繪圖面監倉取締ノ爲メ別段設ケ之レアル總門)外郭ノ
牆(繪圖面監倉取締ノ爲メニ設ケアル外構板塀)ニ該リ候
哉兩岐ニ涉リ判然致シ兼候間精細御指揮被下度此段再
應相伺候也

(指令)

外郭ノ門外郭ノ牆ト心得ヘシ

第十一條

明治九年三月三日
司法省ヨリ正院ヘ伺

各監倉内務省管理ノ儀上申候所去月三日御開屆相成諸
檻倉及費額等同省ヘ協議ノ上引渡方可取計旨御指令ノ
趣敬承然ルニ費額ノ儀ハ本年定額常費中へ混入月々大
藏省ヨリ請取候儀ニ付一時引渡シ方難取計後來月々大
藏省ヨリ請取再ヒ内務省ヘ引渡候様ニテハ無益ノ手數
ヲ要シ却テ雙方ノ不便利ニ付同省ヘ引渡迄ノ經費ハ當
省ニテ仕拂殘餘ハ大藏省ヘ返納致シ爾後大藏省ヨリ不
請取候間右金員ニ當ル費額更ニ檻倉管理ノ使廳府縣ヘ
御渡相成度此段再ヒ仰御裁決候也
八年第九十號四丁參看

(指令)

伺ノ趣開屆別紙ノ通大藏省ヘ相達候事

別紙

大藏省

監獄則

別紙司法省伺糧倉費用分界ノ儀聞届朱書ノ通及指令
 候條右所管ノ各地方廳へハ最前司法省上申ノ金額ニ
 基キ當分月割ヲ以假渡ニ取計置追テ各廳經費増減等
 取調可申出此旨相達候事
 但開拓使へハ別紙ノ通和達候事

開拓使

箱館裁判所糧倉其使所管相成候ニ付テハ右受取濟以
 降ノ諸費一切定額中ヨリ可仕拂此旨相達候事

第十二條

明治八年十月神奈川
 縣ヨリ司法省へ伺

本年四月二十三日附警第九百三十三號ヲ以テ獄舎陝隘
 ニ付懲役百日以下ノ囚人悉皆同月二十六日ヨリ管杖實

決相成度段上申ニ及尙當裁判所へモ共旨通知致シ爾來
 管杖ノ刑名宣告相成來候處八月九日ニ至リ別紙ノ通
 リ通達有之就テハ獄吏ニ於テ法官申渡ノ刑名ヲ矯曲ス
 ルノ姿ヲニ相見へ不都合ニ被存候ニ付尙同所へ先前ノ
 通管杖ノ刑名申渡相成度段打合セ候處右ハ地方ニ適宜
 ニテ苦カル間敷旨被相答候へ共既ニ本年第二十五號御
 省御達ニ處決表中管杖ノ部記載有之依テハ法官ニ於テ
 管杖ノ刑名宣告可相成ハ至當ノ儀ト存候間尙又其段同
 所へ打合セ候へ於法官ハ到底其筋ヨリ御達方無之テ
 ハ施行不相成趣ニ有之右ハ如何取計候テ可然哉若シ前
 件ノ通り獄吏於テ刑名矯曲イマシ不都合ニ候ハ、管杖
 ノ申渡可相成様御下達有之度此段相伺候也

(指令)

伺ノ趣當省達第四十一號ヲ以テ相達候事

第十三條

明治九年一月廿三日
賀縣ヨリ内務省へ伺

第一條

一 囚獄懲役場囚徒人員取調方ハ未決囚及已決囚共總テ
 繫監獄人ノミニ限リ取調記載可仕哉ニ奉存候得共當
 縣ニテハ輕罪犯者取調中親族或隣保等へ責付即決セ
 シ者有之右等モ通計合算シ明細書へ登記可然哉
 第二條
 一 已決囚總員内譯中除族ニ止ル者ニミ除族何員ト記載
 可然哉又ニ除族ノ上懲役ニ處セシ者モ合シテ登記セ

ハ重複ニ至リ總計通算難相立ニ付右等ハ除族ノ部ニ
 除キ已決現員ノ部ニ算入記載可然哉
 右兩條相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣左ノ通

第一條

入監セシ者ヲ記入ス

第二條

伺ノ通

第十四條

明治九年二月二十九日
大坂府ヨリ司法省へ伺

未決ノ囚人反獄ヲ謀リ既ニ監獄ヲ毀損シ未逃走セサル
 者並反獄ヲ企ルト雖モ未タ監獄毀損ナルニ至ラサル内
 發覺スル者處分ノ儀八年二月十日相伺候所同三月二十

監獄則

日御指令有之 八年第四十三號三丁見合セ就ラハ已決ニテ右同斷ノ者
モ同様處分シ可然哉相伺候也

(指令)

伺ノ通

第十五條

明治九年八月熊谷
縣ヨリ内務省へ伺

囚獄懲役場ニ於テ説教施行ノ儀去ル六月廿七日相伺候
處已決囚ノニ聞置候條手當金ハ懲役費ヨリ可致支給旨
御指令ノ趣領承仕候然ルニ爰キニ村田大亟ヨリ説教手
當金ノ儀ニ付云々被及推問候節未決已決囚徒ノ所在並
外役箇所等詳細回答仕到底已決囚ハ勿論未決ノ囚徒ニ
至ルマテ説教聽聞爲致自ラ真心ニ歸セシメントノ主意

ニテ相伺候儀ニ付前條未決囚ノ儀モ御聞置被下度更ニ
相伺候也

(指令)

書面未決囚ニ説教聽聞爲致候儀ハ難聞置候事

第十六條

明治八年九月二十七日
熊谷縣ヨリ内務省へ伺

當縣懲役場限内ノ婦女妊娠致シ居リ出産ノ期ニ切迫依
テ分娩前後藥價其外諸入費モ實際ニ依リ計算相立悉皆
官費支給ノ儀ト相心得可然哉ノ旨本年七月相伺候處書
面ノ趣ハ他管遠隔ノ人民ニシテ妊娠ノ理由不明瞭ノ者
等分娩入費ノ儀ハ實際ノ事由ヲ詳ニシ其都度可伺出尤
モ差掛リ候分ハ不得止儀ニ付一時官費ヲ以繰替處分ノ

上尙可伺出旨御指令相成就テハ七月以降右分婉前後諸
入費別紙仕譯ノ通練替仕拂置候分悉皆懲役費ヲ以當七
月ヨリ九月迄ノ御勘定ニ相立可然哉相伺候也別紙除之

(指令)

書面伺ノ趣無餘儀筋ニ相聞候間懲役費仕拂ニ相立不苦
事

第十七條

明治八年五月廿九日大
分縣ヨリ内務省ヘ伺
當縣新置以來別ニ病監ノ設ケ無之假ニ空牢ヲ以テ區別
相立病囚矜恤致來候處該牢ハ素ヨリ粗惡ニシテ却テ通
常牢監ニモ及ハス且漸々破壊ニ及候ヨリ不得已即今ニ

テハ通常獄内ニ於テ藥用等爲致候次第ニテ實ニ矜恤ノ
道ヲ盡シ兼候條今般別紙圖面ノ通新規經營致度依テ目
論見帳ヘ引受人與書相添相伺候也別紙並圖面除之

(指令)

書面病監ノ儀ハ未決既決ノ區別相立男監女監二棟ニ建
築ノ積ヲ以目論見内譯帳ヘ繪圖面相添且構内建築ノ位
置記載更ニ可申出候事

但尋常ノ獄舍一房五尺以下合居ノ積區畫相立病監ハ
右ヲ斟酌シ仕様柄改正ノ上可申出候事

第十八條

明治七年十二月十七日
京都府ヨリ司法省ヘ伺
過ル九月中父兄等ヨリ其子弟ノ不良ナル者懲責ノ爲メ

監獄則

徒場入願出候ハ、情實取糾警視廳へ照知ノ上當府ニ於テ監獄則第十條ニ照シ處分可致旨御達ニ付テハ右十條中平民其子弟ノ不良ヲ憂ル者云々ト有之士族ニテ願出候共同様ノ取扱致可然儀ニ候哉此段相伺候也

(指令)

自宅ニ於テ懲戒致シ難キ者ハ平民同様取扱可然候事

第十九條

明治八年八月十四日和歌山縣ヨリ内務省へ伺

監獄則第十條ニ平民其子弟ノ不良ヲ憂ル者アリ此監ニ入レシコトヲ請フ者ハ之ヲ聽スト有之右ハ父兄ノ情願ヲ許可シ其子弟ヲ該監ニ入ル、者ノ獄費ノ如キハ公自費ノ區分如何相心得可然哉相伺候也

但本文監獄則第十條ニ平民トハ一般人民ヲ指候ヤ又ハ士族ノ如キハ格外ニ見做スヘキヤ是又相伺候也

(指令)

書面其父兄ノ情願ニ依リ懲治ノ者ハ自費可追徵事但平民トハ族稱ナキ人民ヲ指ス者ト可相心得尤士族以上ト雖モ自宅ニ於テ懲戒致シ難キニ付入監ヲ請フ者ハ之ヲ聽シ不苦候事

第二十條

明治九年九月十九日大阪府ヨリ内務省へ伺

監獄則懲治監條中貳拾歲以下懲役滿期ニ至リ云々然ルニ貳拾壹歲以上逆意殺心ヲ挾ム者ニアラスト雖モ處刑中度々獄則等ヲ犯シ滿期ニ至ルモ尙惡心悛ラス其儘放

監獄則

還候テハ本人後來ノ戒ニ不相成ニ勿論他囚取締ニ可關
ト見込候者或ハ貧乏營生ノ計ナク再ヒ惡意ヲ挾ムニ嫌
アル者ハ貳拾歳以下ノ者同様懇諭シテ懲治監ニ留置營
生ノ業ヲ勉勵セシメ候ハ、放還ノ後ハ勿論處刑中モ更
ニ戒慎シ本人ノ幸ノミナラス一休ノ取締ニモ可相成哉
相伺候也

(指令)

書面伺ノ通

第二十一條

明治九年三月十七日教
賀縣ヨリ司法省へ伺

明治七年御省第十六號御達中追テ獄舎建築法及ヒ獄則
等御達迄ハ私宅内ニ於テ禁獄ノ振合ヲ以テ一室ニ締相

付云々ト有之候所若シ他縣下ノ者ニテ十日乃至二三十
日ノ禁獄所斷相成候者本籍ハ道路遠隔ナルヲ以テ旅費
等モ辨シ兼ルニ付キ郷里へ復歸スルヲ不願且其地ニ親
族知音等モ無之ヨリ官舎ニ於テ謹慎致度旨願出候節ハ
聞届不苦候哉就テハ懲治監内ニテ他囚ト別異シ爲慎置
可然哉此段併セテ相伺候也

(指令)

伺ノ通懲治監内ニテ他囚ト別異シ謹マシムルモ不苦候
事

第二十二條

明治九年三月十八日大
分縣ヨリ司法省へ伺

監獄則興造第十條ニ平民其子弟ノ不良ヲ愛ラルモノア

監獄則

リ此監ニ入シテ請フモノハ之レヲ聽ストアリ右處分
ハ裁判官ノ權限ニ候哉果シテ然ラハ民刑事ノ内何レニ
屬シ且父兄タルモノ出頭ノ手續等如何ニ致サセ可然哉
相伺候也

(指令)

行政上ノ處分ニ係リ裁判官ノ權限ニアラス

第二十三條

明治十年三月十三日
瀧縣ヨリ内務省へ伺

當縣監獄署ノ儀追々已未決囚倍蕪シ自然脫監等ノ恐モ
有之嚴重取締方注意致置候得共從來獄署周圍外ニ點燈
無之ヨリ黑夜ニ至テハ更ニ人影ダモ覺メ得カタク不都
合ニ付自今取締ノ爲メ門前へ別紙ノ如ク點燈貳個設立

可然哉相伺候也 別紙除之

(指令)

書面伺ノ通開届候條合金九圓ヲ目的ニ着手落成ノ上精
算帳可差出尤費用ハ三分一官費其餘民費ト可相心得事

第二十四條

明治九年五月十三日
磨縣ヨリ内務省へ伺

第一條

一 監獄則繫獄ノ部第五項書信ハ囚ノ情願已ムテ得サル
トアレハ獄司裁判官ト商議シ之ヲ聽ス又懲役ノ部第
九條前後項書信云々開載有之是皆繫獄若クハ懲役中
ノ囚徒ヨリシテ他ニ通信スルノ事ト做ス其他ヨリシ
テ未決已決ノ囚ニ通信スルコト至テハ囚ニ答書スルヲ

監獄則

聽スノ外更ニ其明文ヲ見ス然レモ未決已決ヲ論セス
已ムヲ得サル情實アリテ親戚等ヨリ通信願出獄吏之
ヲ檢閱シ害ナシト思量スルモ未決已決ヲ分テ未決
囚ノ分ハ裁判官ト商議シ已決囚ノ分ハ獄司ノ專斷ヲ
以テ差聽シ可然哉

第二條

一未決 在監繫獄已決ノ囚徒親屬ノ者ヨリ書信ニテハ辨
シ難キ用事アリテ面會願出ル者往々有之右ハ罪ノ輕
重ヲ論セス一切不聞届可然哉
右兩條相伺候也

(指令)

第一條 伺ノ通

但已決囚ト雖モ國事犯ハ裁判官へ商議スヘシ

第二條 未決囚ハ國事犯及裁判官ヨリ格獄吏先ツ其願
意ヲ推問シ事情不得已ニ係ルモノ及ヒ已決囚ハ親戚
鄰伍ヨリ其趣意ヲ記載シ所役人ノ添書ヲ以テ出ル者
等ハ獄吏立會面話致サスヘク尤願願ノ外他故ニ及フ
ヲ不聽其應答ハ詳記可致置事

但國事犯及裁判官ヨリ格別ノ指揮アル者ハ裁判官
へ商議スヘシ

第二十五條

明治九年十二月廿六日神奈川縣ヨリ内務省へ伺
處刑濟ノ者原籍掛合中教育所へ拘置スル賄費ノ儀ニ付
本年十月中壹課第四千三百卅號ヲ以テ別途御渡可相成

監獄則

哉又ハ額外常費中囚人諸費ノ内ヲ以テ可仕拂哉ノ旨相
伺候處額外常費中囚人諸費ノ内ヲ以テ可仕拂旨御指令
有之然ルニ獄事計表ヘハ囚獄費ヘ合算記入可然哉將
附箋ヲ以テ別記致置可然哉果ノ然ヲハ右處刑濟教育所
ヘ拘置スル者共ハ未決檻出入表ノ内檻外責付部目ノ末
ヘ教育所ニ在ル者ト云フ區分ヲ增加記入可然哉右等ハ
除去シ記入ニ不及儀ニ候哉相伺候也

(指令)

書面費用ノ儀ハ囚獄費ヘ合記可致處刑濟拘置ノ者ハ配
入不致儀ト可相心得候事

第二十六條

明治八年六月二十八日
長崎縣ヨリ司法省ヘ伺

懲役ニ五等アリ其年限ニヨリ等ヲ進メ殊懲ノ者ハ其年
限ニ拘ハラヌ五等ノ一百日ヲ經過スレハ備ヒ錢ノ多少
ヲ以テ階級ヲ定ムルハ監獄則圖式第七號ニ詳ナリト雖
モ他囚ニ勝レ能ク獄則ヲ守リ工役ヲ務メ各囚ノ模範ト
ナルヘキ者ハ其年限ノ等級ニ拘ハラヌ之レヲ一等ニ進
メ日給ト食費トヲ除キ餘ル備工錢ハ放免ノ節下付シ可
然哉
懲役一年以上ノ囚人限内逃走シ外ニ在テ重ネテ三年以
下ノ罪ヲ犯シ懲役三年一百日三年半四年又懲役五年以
上ノ囚人限内逃走シ外ニ在テ五年以上十年以下ノ罪ヲ
犯シ九年拾一年拾四年等ニ處セテ裁判所ヨリ引渡シ
アル時役限等級何等ノ權衡ニ依リ可然哉

懲役一年ノ囚醫ハ曠過日數一百日ヲ除去シ懲役二百六十五日ニ處セラル、者ハ曠過一百日ヲ以テ五等ノ役ヲ經過スル者ト見做シ輕鎖ヲ着ケ四等ノ役ヲ執ラシメ其他ノ日數延縮ニ應シ役限内ニ算入シ可然哉
 棒鎖一日トハ改定律例第九十一條ニ因リ二十四時間ト心得居候處昨七年御省日誌第百五十三號大坂府伺御指令ニ十二時間ヲ以テ一日ト爲スト有之候ニ付自今棒鎖一日ハ十二時間ト心得可然哉
 右相伺候也

(指令)

第一條 伺ノ趣殊毒者ヲ以テ取扱フ可シ
 但本罪五年以上ニシテ能ク獄則ヲ守リ他囚ノ標準

トナル可キモノハ監獄則第十七條ニ具載ノ通和心得猶ホ異常謹敷ノ者アルハ本罪三年以上以下ト雖モ其次第ヲ詳記シ更ニ當省ヘ伺出ツヘシ

第二條 懲役一年以上ノ者役限内逃走シテ又加罪半年以上犯セハ其半年ノ日數ハ第五等四等ノ間ニ配算シ前犯一年ノ日數中四十五日ヲ第一等ノ限トシ其剩日ハ二等三等ニ配算シテ之ヲ役ニ餘ハ類推ス可シ
 但從來專伎アルモノ及ビ前犯服役中練熟ノ作業アル者ノ如キハ殊毒三級ノ法ニ從テ取扱フ可シ
 第三條 一百日間第五等ノ役ニ服サシメ四十五日ヲ第一等ノ限トシ剩下ノ日數ハ第二等三等ノ間ニ配算ス可シ

監獄則 第四條 伺ノ通

監獄則

第二十七條

明治七年三月廿二日警

視廳ヨリ内務省へ伺
懲役人共學術ヲ教授セシメ候儀ハ監獄則ニモ相見へ已
ニ其設ケ有之候得共從來法則ノ整備ナラサルヨリ進歩
ノ功不相見候間今般更ニ教則ヲ設ケ幼囚ヲ區別シ相應
ノ書籍ヲ與へ時間ヲ定メ教授爲致度見込ニ付必用ノ書
籍其外トモ別紙ノ通相備度右金額別途至急御下渡相成
度相伺候也 別紙

(指令)

書面書籍其他買上代價別途渡ノ儀ハ難聞届候條懲役費
ノ内ヨリ繰合セ買入候儀ハ不苦儀ト可相心得事

第二十八條

明治七年十一月廿七日

大坂府ヨリ司法省へ伺
佐賀縣貫屬士族高楊應貴外三人儀當府へ分配相成候同
縣第八大區一小區中ノ橋石住居高楊應優外十七人へ面
會ノ儀願出候間當地裁判所へ及問合候處尋常ノ懲役人
ニモ無之本省ヨリ出張處斷相成候儀ニ付取計振一應可
相伺旨回報有之共段應貴外三人へ相違候處親族懲役人
分配ノ各府縣へ至急願度儀有之趣ニテ右願書下ケ渡ノ
儀申出此度ハ相濟候へ共以來右同様出願ノ節伺ヲ遂候
様ニテハ日數モ相掛願人共迷惑ノ次第ニモ可有之就テ
ハ其情由篤ト相糾情願不得止ニ於テハ面會差許候テモ
差問無之哉此段相伺候也

(指令)

監獄則

懲役人其親戚ヨリ面會ヲ請フトキハ篤ト共自由ヲ聞糾
止ムヲ得ルニ於テハ差許可然事

但面會ノ節ハ懲役場掛切ノ吏員二名以上附添餘談
ヲ戒ム可シ

第二十九條

明治七年十二月廿七日
東京府ヨリ司法部へ伺

懲役中ノ者ヨリ手習入用トシテ筆紙墨硯又ハ書籍差贈
方親戚へ通詞致シ吳候様願出修業上ノ儀ニ付聞届可然
哉其外食物並衣類同斷ノ願意ハ一切取揚申問敷懲役場
ヨリ申出候間此段相伺候也

(指令)

伺ノ通

第三十條

明治八年四月十八日山
梨縣ヨリ内務省へ伺

懲役場ニ關シ候費用ノ儀ニ付御布達ノ趣モ有之候處當
懲役場ノ儀ハ授産ノ方法ニ未タ備ハラス工器モ未熟ノ
役囚ニテ日々工業ニ就クモノ僅ニ二三十名ニ不過
其他ハ街路ノ修繕土石運搬等ノ外役ニ供シ候得共備工
錢ノ如キハ一日間僅ニ七八錢内外ニテ十錢ヲ超ユルハ
稀ニシテ實際監獄則ニ依リ施行致シ兼候ニ付役囚付與
金ノ如キモ從前ノ通其備工錢ノ十分一ヲ給與致シ來候
得共右備工錢ニテハ食費モ難償月々官費相嵩候ニ付當
分ノ内付與金ノ儀多寡ニ以下ノ罪囚ハ備工錢ノハ備工錢
ヲ以テ食費ニ不充者ハ總テ給セズ其他食費引去殘金
ノ十分一ヲ給與致シ度候

監獄則

無籍無産及營生ノ計ナキ者授産場ニ留置中ノ者ハ罪囚トモ異ナルニ付内外ノ傭工錢ヲ以毎日ノ食費ヲ除法ノ殘金ハ悉皆付與致シ可然哉

(指令)

書面伺ノ通リ取計不苦尤モ第三條ハ放免ノ節付與致シ候儀ト可相心得事

第三十一條

明治八年五月九日度

會縣ヨリ司法省へ伺
懲役人戒鎖ノ儀ニ役囚傭工錢ノ内ヲ以テ充備スルハ論
ヲ不俟候へトモ當縣未ダ役法不相立累月入費而已相嵩
候ニ付一時官費ヲ以テ輕重鎖製造仕度先般内務省へ相

伺候所明治六年百二十號公布ノ次第モ有之難聞届旨御
指令相成候ニ付従前ノ通リ使役致來候所兼テ首輪ノニ
相用ヒ候爲メ一時數十囚ノ使役ハ取締モ不相立去リ迎
主守數名ヲ雇ヒ候へハ又隨テ經費多ク已ムヲ得ス十四
以上へ一名ノ主守ヲ付シ外役爲致候儀モ有之然ルニ或
ハ山林ニ入り樹木ヲ伐リ或ハ人家稠密ノ場ニ於テ土木
等運搬セシムル如キニ至テハ一目ノ監守スル能ハス之
レ必竟着鎖無之連續使役成リ難キノ憂ニテ動モスレハ
囚徒糾合逃走スルモノ有ルニ至ル是強ク主守ノ怠慢ト
而已謂ヒ難ク情實止ムヲ得サルニ出テ候儀モ有之就縛
ノ一囚ヲ護送シ逃逸セシムル者等ト同ク例三百九條ニ
依リ科斷候テハ頗ル苛酷ヲ覺候ニ付昨七年百三十四號

監獄則

公布ニ因リ情法ヲ酌量シ減等相用不苦候哉相伺候也

(指令)

情法ヲ酌量シ減等スヘキ見込アル者ハ適宜處分ニ及フ

第三十二條

明治八年十月二十二日
北條縣ヨリ司法省ヘ伺

當縣懲役人去明治六年中伺ノ上管下鎮山稼人願出ニ依
テ貸與置候處右ハ鎮砂吹立候場所ニ限ラス其囚ノ強弱
巧拙ニ依テ雇錢ノ等級ヲ定メ雇主ノ便宜ニ依リ鎮砂吹
立或ハ鎮砂運送樵等ニ使役仕候然ルニ鎮山稼場ハ孰レ
モ應テ距ル十里以外ノ深山ニテ樵等ノ業ニ至ツテハ大
樹森々タル深谷ニテ伐木候儀ニテ使役方ノ者多囚ヲ引

卒ニ眼力届カス加之地理不案内等ヨリ取締行届カス時
々失囚ノ憂有之因テ役囚鐵山へ貸與候儀ハ相止メ可申
ト差考居候折柄雇主ヨリ申出候儀ハ役囚借受候ニ付テ
ハ雇主ニ於テ利益有之因テ以來稼人手代以內ヲ撰ニ役
囚使役方申付ラレ候ハ、地理案内ノ者共ニ付失囚ノ憂
ニ少ク且給料官ヨリ別ニ給與無之トモ雇主ヨリ給シ失
囚贖罪金等ハ雇主ノ手代ヨリ贖ヒ候テモ雇主ニ於テ聊
損失無之ニ付貸與與レ候様願出候間公私ノ都合ト存シ
聞届雇主ノ手代ニ使役方ニ申付役囚一ヶ所ニ四十八
人宛ハ五十八人宛貸與候囚失囚ノ節ハ其節使役ヲ掌ル者(雇
主ノ手代ニテ使役方ヲ申付ル者)ヲ失囚ノ罪ニ坐シ可然
ト存候ヘル爲念相伺候也

監獄則

(指令)

伺ソ通

第三十三條

明治九年七月廿七日三
重明縣内務省六伺

司法省日誌昨八年第九十貳號舊度會縣伺懲役囚監外重
役ノ者一兩名ツハ雇使致度段雇主ヨリ願出候モノ有之
時ハ謹直ナ者ヲ撰願ノ通差許シ朝夕往返丈ケ獄丁
ヲシテ看護爲致其他ハ雇主ニ付シ置キ云々ニ伺ノ通ト
御指令相成候ニ付テハ當縣ニ於テモ同様出願ノ者有之
時ハ役四五名以内ハ雇主ヨリ證書ヲ取リ朝夕往返丈ケ
獄丁ヲシテ看守爲致其他ハ雇主ニ付シ使役可然哉相伺
候也

(指令)

書面ノ趣難聞屈候事

第三十四條

明治八年七月八日佐
賀縣ヨリ司法省ニ伺

第一條 懲役人犯罪有之裁判所鞫問中並ニ獄則ヲ犯シ
罰則ニ處シ曠役スル日數ハ償算致シ可然哉
第二條 懲役人負債アリテ貸主ヨリ出訴シ數次裁判所
喚問中曠役スル日數ハ償算可致哉又ハ限内ニ算入致シ
可然哉
第三條 懲役人他人出訴ノ保證ノ爲メ裁判所ニ喚問セ
ラレ曠役ナル日數ハ限内ニ算入致シ可然哉
第四條 老小及廢疾者盜罪賭博等加等スヘキ再犯ニ係

監獄則

リ懲役ニ處セラレシハ輕役ヲ執ラシムルハ勿論ニ候處
 若シ病臥シテ役ニ就クコト能ハズ滿限ニ至リ曠役ノ日
 數ニモ償フ能ハサル者ハ定例第五十條若シ數次及
 フ者ハ通計合算シテ乘除スト云フニ依リ放免致シ可然
 哉
 右相伺候也

(指令)

第一條 鞠問中休役者ト雖モ無罪ニ歸スレハ休役日數
 限内ニ算入以罰則ニ處セラル、日數モ亦限内ニ算
 入スヘシ

第二條 曠役日數ハ償ハシムヘシ

第三條 伺ノ通

第四條 重病ニシテ遂ニ曠役日數ヲ償フ能ハサルハ曠
 役日數ヲ收贖セシメテ放免スヘシ

第三十五條

明治八年五月三十日 埼玉
 裁判所ヨリ司法省ヘ伺

當所懲役人役方法ノ儀十名内外ノ人員ヲ以テ一ト組ト
 シ道路修繕等ノ節ハ看守人一兩名ツ、差出候へ共右ハ
 稀少ニシテ多クハ宿村へ日雇ニ差出シ其出入數ノ多寡
 亦ハ道程懸隔ノ摸樣ニ依リ看守人不足ノ節ハ日雇願出
 ル者へ送迎致サセ別段看守人差出サス本犯並ニ雇主へ
 不取締無之儀嚴重申付置候由ニ有之依テ其働先ヨリ脱
 逃シ其他惡事等有之節其看守嚴ナラサルヲ以テ之ヲ罰
 スルハ無論ニ候得共若シ農業請般被雇先右同様ノ儀有

監獄則

附基

之節ハ其雇主ヲ以テ看守者ノ罪ニ坐シ可然哉ノ段明治
 六年十月二十四日附テ以テ相伺全十二月十二日看守人
 者ハ第三百十條ニ依リ科スヘシト御指令有之依テ其囚
 ノ逃走ヲ覺ラサル雇主ハ則主守ニ准シ捕限三十日ヲ給
 シ右限過ルヲ俟テ處斷シ來リ候然ルコ本省日誌本年第
 三號水澤縣ヨリ主守囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ捕限三十
 日ヲ給スル律法ニ候處右限内主守ノ者ハ精々探索ニ派
 出シ其懈怠ヲ贖フヘキ譯ニ候哉又惟三十日捕限ト做
 失囚ノ罪科處斷見合セ置クノミニ候哉若シ果シテ探索
 ニ派出スル候ハ限内ノ旅費ハ官給ニテ可然哉ノ
 伺御指令ニ主守囚ノ逃走ヲ覺ラサル者ハ捕限三十日

給シ追捕セシムトアソハ捕限内ハ勿論處斷見合セ且失
 囚者追捕ニ出ル法ナリ其追捕中ノ費用ハ官費タル可
 ト有之由テハ前書雇主僊役人ノ逃走ヲ覺ラサルハ處斷
 見合置捕限三十日ヲ給シ探索ニ派出スルハ同一ニ付限
 内ノ旅費ハ右水澤縣ニ御指令ニ適從官費給與可然哉右
 捕限裁判所ヨリ給スル上ハ又探索派出限内ノ旅費モ裁
 判所ヨリ給與可然哉或ハ該縣ヨリ給與スル儀ニ候哉相
 伺候也

(指令)

保管人ヲ以テ自ラ探索セシムルヲ必要ナリト思料スル
 時ハ派出セシムト雖モ其他ノ場合ニ於テハ別段派出セ
 及ハス但派出セシムル時ハ裁判所ヨリ旅費ヲ

給付可也

第三十六條

明治九年三月十五日
城縣内務省令

第一條

一 懲役人中役ノ内外ヲ問ハス土木運搬荒地開墾或絞油
採掘等各事出役ノ際過テ傷痕ヲ被リ候者ハ固ヨリ驅
役ノ爲メ不慮シ災害ニ罹リ候儀ニ付其療養ノ間休役
スル日數ハ限内ニ算入スルキハ勿論ト被存候得共或
重傷死ニ至ル者及死ニ至ラズトモ終身自用ヲ辨スル
能ハサル者等ノ處分方泳ハ的例無之右ハ昨明治八年
天取官第五十四號御達官役ハ夫死傷手當規則ニ照準
シ本隊或親戚ノ者ニ扶助料並埋葬料ノニ支給可然哉

第二條

一 懲役滿限放免ノ者該村町ニ可引渡ノ處當日引取人出
頭不致授產場留置中ノ者又ハ他管轄ノ者ニテ同上
第三十放免ノ後原籍取調本貫ニ掛合中留置ノ者等傷痕ヲ被
リ候節前條同様取計可然哉

但本文引取人引限後出頭候儀強テ引取度旨申立
候儀本本人疵ノ輕重ヲ量リ療養料モ差遣シ又ハ傷
二 瘡人病檻ニ差入疵所平愈之後再ヒ引取人出頭候節
旅費官費ニ相立去ル明治七年天取官第七十
號御布告ニ照準支給可然哉

監獄則

(指令) 前條ノ通シテ、監獄則ニ依リ、

書面伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 懲役人軀役中不慮ノ災害ニ罹リ候者扶助料并埋葬料給與スル者三ノナリ若シ死ニ至ル者ハ官ニ於テ埋葬シ醫ノ癘疾ト診斷スル者ハ司法省ニ可伺出事

第二條 懲役人同様可相心得事但引取人出頭候ハ引渡スルニ若シ重傷等ニテ即時難引取滯監相願候ハ聞届不苦候得共再ヒ引取人出頭スル其旅費官費不相立候事

第三十七條
明治九年三月廿四日
勅 内務省 伺

一 懲役人ノ儀監獄則懲役法ニ依準シ第五等ヨリ第一等

一 至リ役限ノ輕重ニ從ヒ使役致來候處徒ニ法則ニ羈束セラレ工役ノ活用ヲ得サルヨリ利潤甚薄ノ費用償却ノ方法モ相立兼候就テハ更ニ力役工役雜役ノ三科ニ區別シ年齡及身體ノ強弱ニ應ジ役ノ難易ヲ量リ適宜使役致候機相改申度候

第二條

一 工錢ノ儀役限第五等一百日間ハ無給第四等ニ至リ殊ニ上級ノ者日ニ一錢中級五厘下級二厘五毛ヲ給與シ第一等ニ進ムノ後ニ至リ其製作ノ物品ヲ販賣シテ之ヲ官ニ領置シ其内ヨリ毎日一錢ヲ給シ放免ノ日右日給ノ一錢下毎日ノ食費トテ除キ殘金ヲ還付ス然ルニ其給金寡少勞シテ益ヲ群囚工業ニ倦ニ奮發競闘ノ

ホ優勝セハ實況ヲ詳記シテ更ニ伺出ヘシ

第三條 終身懲役ノ者下雖モ只ニ勞働ノ服役ヲ除ク者

ト定ムニカラズ第一條但書及第二條ニ參照シテ取扱

ヒ囚情ヲ勸誘スベシ

第三十八條

明治八年十二月十三日
東京府ヨリ司法省ヘ伺

懲役人一年以上ノ該犯口供完結後滯獄日數除去シテ刑

名宣告ノ者其役限區分スルニ於テハ假令ハ一年ノ者滯

獄十日アツテ之レヲ除去シ殘日數三百五十五日ニ付テ

ハ其除去スル十日ハ五等役一百日間ニ加算致シ候哉又

滯獄日數右一百日ヨリ剩ル時ハ第四等第三等ト役限順

序ヲ階ニ加入スル儀ト心得可申哉相伺候也

(指令)

滯獄日數ハ四等三等二等ノ内ニ於テ平分シテ除去シ五

等一等ノ日數ニ加減スルコトヲ聽サス

第三十九條

明治八年十月四日福島上等
裁判所ヨリ司法省ヘ伺

本省明治八年三月第四號ヲ以テ棒鎖ハ婦女ヲ罰スル具

ニ無之云々ニ付以來婦女ハ監獄則闔室ノ條ニ依リ處分

可致旨御達有之候所未シ棒鎖ヲ以テ闔室ニ換フハ日限

ノ明文無之就テハ婦女懲役場逃亡ノトキハ棒鎖一日ハ

闔室一晝夜二日ハ二晝夜ニ處分可然ト相考候得共改定

律例ニ棒鎖ハ三日ヲ期トシ監獄則ニ闔室入ハ七晝夜ヲ

期トスルヲ照會スルコトキハ仍ホ棒鎖一日ハ闔室二晝夜

監獄則

何時間ニ準折ス可キ儀有之候哉右ハ解明相成カ...

(指令)

棒鎖一日ハ閤室一晝夜ニ換フ可シ...

第四十條

明治八年十一月十五日
東京府司法省

懲役人滿限ニ至リ惡心未タ悛ヲサル者等監獄則第十條
依リ仍ホ拘留服役中逃亡ヲ企テ同囚知覺シ訴出ル者
政定律例第三百四條ニ依リ御處分相成候哉然レハ其
都度裁判官ハ稟告可致候ニ付以後爲心得此段相伺候也

(指令)

懲役滿期ニ至リ惡心未タ悛メス懲治監ニ在ル無罪人逃
走ヲ企ルヲ報告スル者有罪人ナレハ第三百四條ニ依ル
無罪人ナレハ食料等ヲ増シ適宜ノ褒賞ヲ施スヘシ

第四十一條

明治八年十二月二日
岡縣司法省

懲役人駿河國庵原郡炭燒村深澤清一郎外八名儀本年七
月二十日午前第一時未決囚人藤森鶴太郎外四人四番監
天井ヲ打破脱出同壹番監ニ番監ノ錠前押明夥多糺合シ
外鞘看守所後口格子打毀反獄脱逃ヲ企候節急劇ノ際防
禦ノ多キヲ要スルヲ以テ前書九人ノ者共平常謹恭ノ者
故出監防禦申付候所一同奮然各棍棒等ヲ携場所ニ立向

ヒ丁長守卒ニ加功シ鞘内ヨリハ反囚等毀餘ノ木材又ハ
 錠前等ヲ以テ或ハ捨付且投付格子ヲ踰越セシトスルヲ
 盡力扞禦大倉總兵衛ハ右ノ手ニ疵傷ヲ受ルニモ屈セス
 終ニ彼等カ勢ヲ挫キ夥多ノ囚人一員モ逃走不爲致段丁
 長守卒ノ力ニ依ルト雖モ前書九名ノ者共盡力モ亦不撓
 依テ改定律例第三百四條ニ比准シ各本罪ニ一等ヲ減シ
 可申哉相伺候也

(指令)

伺ノ通

第四十二條

明治八年十二月九日三
 淵縣ヨリ司法省へ伺
 監獄則懲役第十二條ノ内第八條賞罰中准流ノ囚人能ク

獄則ヲ守リ工役ヲ勉ムルハ他囚人ニ勝ル者ハ第一等期
 限ノ半ヲ過キ放免云々ノ特典アリ若ハ獄司具狀シ裁判
 官ニ告ケ其許可ヲ經テ之ヲ施行スルト有之候ニ付テハ
 規則ニ照準シ實際相違ナキ者ハ聞届直ニ放免ノ上具狀
 候迄ニテ可然哉相伺候也

(指令)

伺ノ通

明治八年十二月廿八日
 千葉縣ヨリ司法省へ伺

未決囚自縊決企テ守卒巡視ヲ間諺窺ヒ既時縊セシトス
 ルヲ同囚之ヲ支ヘ止メ守卒ニ報告スル者アリ然ルモ其
 經具構成ノ如キ衣類引裂等飯糰ヲ以テ之ヲ廁間ノ天
 井ニ貼付スル者ニ付假令同囚之ヲ支ヘ止メテ到底

死ヲ遂テカル者ナシハ發時ニテ支止シテ四ニ於テ
 ハ具ニ縊死ヲ救援セシメ者其異ニシテ如斯者其報告者ヲ
 賞スルノ的例無之候得共褒賞ニシテ三日或ハ五日間常
 食ノ外ニ魚肉等ヲ加給シテ可然哉又ハ裁判所ニ移シ減
 等ノ處分ニ係ル者ニ候哉右處分方決シ兼候ニ付内務省
 相伺候處御省ニ可伺出旨御指令ニ付相伺候也

(指令)

魚肉等ヲ加給シテハ

第四十四條

明治九年一月二十日神奈川裁判所ヨリ司法省ニ伺
 濱松縣遠江國出生郡村名不存當時無籍越藏事齋藤幸八
 儀強盜ノ從ニシテ室ニ入ラシ財ヲ搜シテ外ニ在テ瞭望

シ財物ヲ接遞スル者ニ付東京上等裁判所批可濟懲役終
 身可申付處本犯獄ニ在リテ能シ獄則ヲ守テ悔悟シ必顯
 シ常々謹勅ニシテ且云々別紙ヲ通獄吏ヨリ申立候若ハ
 本罪可被相省手如何右書面之略相添御指揮奉仰候也

(指令)

食料ヲ賞與スヘシ但シ一日定額ノ外一錢或ハ二錢三錢
 ナ増シ三日間若シハ五日間一周間内ニテ適宜ニ賞與シ
 仍ホ已決シ後候改功勞ノ證アラハ更ニ申出可シ

第四十五條

明治九年二月十四日大坂府ヨリ司法省ニ伺
 去歲十二月十五日夜懲役人服部喜間太ナル者於監内縊
 死セシトスル候同囚根村熊太郎石崎隆吉帶若洪々相勸

ク奇特ノ儀ニ付相當ノ御賞與相成度依之熊太郎外三人
申立書之相添此段相伺候也

(指令)

別紙懲役人根村熊太郎外二名奇特ニ付特典ヲ以テ各本

罪一等ヲ減ス可シ

但シ本文ノ儀各犯ニ申渡セシ上ハ原裁判所ニ其由可

届置事

第四十六條

明治九年二月二十五日
賀裁判所ヨリ司法省ニ伺

本省本年第二拾號布達ニ犯罪事情ニ因リ死罪及ヒ懲役
終身ノ本罪ヨリ酌量輕減云々死罪ヲ減シ懲役終身ニ處
スル者ハ府縣裁判所章程第五條ノ通可心得上有之然ル

時ハ已ニ懲役終身處斷相濟タル役囚水火等非常ノ變災
有之節消救防禦同囚ノ死ヲ救フ等拔群ノ功勞アル者ハ
例第三百六條ニ依リ一等減ノ處分當然ノ所右ハ該上等
裁判所ノ批可ヲ乞ヒ處斷可致哉又ハ例ニ照シ直ニ處分
不苦哉相伺候也

(指令)

死罪ヲ酌減シテ懲役終身ニ處スル者上等裁判所ノ批可
ヲ受ケ處分可致最モ例第三百六條減等ノ儀ハ直チニ處
分不苦事

第四十七條

明治九年四月二十七日
警前縣ヨリ司法省ニ伺

本縣終身懲役囚石田淺之助儀從來脫服ノ難症有之候ニ

監獄則

付平日布禪ヲ以テ之ヲ押へ漸次治療ノ見込ヲ以テ手當
 致シ置候處方今腸部劇痛煩悶ノ際病症ノ不治飽果ヲ當
 四月十六日夜十時頃同囚ノ寐入ルヲ窺ヒ右禪ヲ牢格子
 三懸テ自縊致候處同囚渡邊卯三郎牢格子ノ方ニ物音致
 大ニ驚キ目ヲ覺シ淺之助ノ居所ヲ手捜シ且聲ヲ掛候へ
 應答無之然ルニ暗黒中同人牢格子ニ寄り立テ居ルヲ
 手振ニテ認メ即テ床上ニ可引戻所頭上ヲ支ユル者アリ
 就テハ縊死ト必付不取敢抱キ上クル折柄同囚岡村助太
 郎モ起出テ懸ル所ノ禪ヲ解キ卸ヌニ人事不通唯左右ニ
 沈脈ノアルノミニ候處種々介抱ノ上漸ク蘇生致候儀ニ
 有之外同囚七名ハ畏懼シテ之レヲ救フノ思慮ナク然ル
 ヲ右兩人憤發シテ非命ノ死ヲ救候段殊勝ノ儀ニテ外囚

ノ獎勵トモ可相成者ニ付特典ヲ以テ罪一等ヲ減セラレ
 候様仕度若シ御許容難相成儀ニ候ハ、右等ノ者賞與方
 御指揮被下度此段相伺候也

(指令)

特典ヲ以テ各本罪ニ一等ヲ減ス

第四十八條

明治九年四月十八日東京
 裁判所ヨリ司法省へ伺

懲役藤井徳次郎外二人同監囚渡邊文五郎ノ縊首ヲ見認
 メ直ニ救助スル廉ヲ以減等ノ儀別紙ノ通警視廳ヨリ具
 申有之右ハ本年本省日誌第二十五號千葉縣伺御指令ヲ
 援引シ魚肉等ヲ加給可然哉ニ候得共其縊首ヲ救フ實際
 上大ニ逕庭アリ如何トナレハ彼レハ支へサルモ可不死

此ハ支ヘサレハ死ス死生ノ關スル所右伺ト同視スヘカ
ラサルニ似タリ該囚ノ如キハ特殊ヲ以テ死罪各本罪ニ
一等ヲ減セラレ候テハ如何別紙一件書類之相添此段相
伺候也

(指令)

伺ノ通

第四十九條

明治九年九月廿二日群
馬縣ヨリ内務省ヘ伺

第一條

一懲役人同囚ノ竊ニ脱場ヲ企テ既ニ脱出スルヲ報知
又ハ圍内外ニ於テ自カラ捕得等致シ訴出ル者有之其
始末審問中捕囚ノ本人役限滿期ニ付放免等ノ者ハ賞

與ノ類例無之處右ハ別段賞與ニ及フ問敷哉又ハ昨八
年第六拾三號公布ニ據リ實際ノ難易ヲ審查シ金貳圓
五拾錢以下ヲ以テ適宜賞與取計可然哉

第二條

一授産人授産場ヲ脱出スルヲ同授産人及ヒ懲役囚ニ於
テ竊ニ認メ報告或ハ捕得訴出ル者前條同様審問中滿
役放免出場等ニ至ル節ハ賞與取計方如何相心得可然哉
右兩條相伺候也

(指令)

書面ノ趣左ノ通可相心得候事

第一條 既ニ脱出スルヲ報知候迄ノ者ハ賞與ノ限ニ非
ス圍内外ニ於テ捕得訴出候者ハ實際ノ手續書相添更

可伺出事
第二條 本年當省乙第百十一號達已決ニ准シ候儀ト可
相心得事

第五十條

明治九年十月七日大坂府ヨリ内務省ヘ伺

已決囚同囚ノ逃走ヲ謀リ或ハ獄則ヲ犯ス等ヲ報告シ其
他篤行奇特ノ者有之其實罪減等可相成程ニ無之雖然情
實賞セサルヲ得サル者有之節給與方云々本年御省乙第
百十一號ヲ以テ御達相成候處未決囚ニシテ前同様ノ節
ハ如何相心得可然哉相伺候也

(指令)

書面未決囚ノ此舉アルキハ其事狀裁判官ニ申告シ置キ罪

處斷ノ節減等ノ限ニ非ス而シテ猶賞セサルヲ得サル分
ハ其事由ヲ具シ可伺出事

第五十一條

明治九年四月茨城

縣ヨリ司法省ヘ伺
懲役人中獄則進犯ノ者監獄則賞罰條ニヨリ處分致候日
數ハ去ル明治七年御省日誌第百三號大坂府伺御指令ニ
照準シ本犯役限内ヘ算入不致限滿ルノ後償役爲致來候
處本年御省日誌第八號東京府伺御指令面ニテハ獄則ニ
關ル、モ、ハ相當ノ處分ニ及フ可シト雖モ其日數ハ仍
ホ本罪ノ數ニ算入スト有之尤兩府伺ノ趣ハ上告日限中
ト決行後ノ別ハ有之候得共其懲罰ハ同一ニシテ獨リ償
役方ニ於テハ區別有之儀ニ候哉解得相成兼候間右ハ何

監獄則

以ニ援引比依シ可然哉此段相伺候也

(指令)

獄則ヲ以テ處分スル日數ハ役限内ニ算入ス可シ

第五十二條

明治八年十月五日東京上等裁判所ヨリ司法省ヘ伺

第一條 懲役十年ノ役囚再ヒ逃走スル者改定律例第二

百九十八條ニ依リ懲役終身ニ科シ棒鎖ヲ不加候ヲ可然

哉

第二條 懲役限内逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者後犯ノ

罪懲役終身ニ至ル者ト雖モ其本罪懲役終身ヲ科シ尙棒

鎖ヲ加ヘ可然哉相伺候也

(指令)

第一條 懲役百日以下ノ囚人ト雖モ再逃スルハ棒鎖ヲ

加フ況ソヤ十年ノ囚棒鎖ヲ加ヘサル可ラス例第二百

九十八條ニ明文ナキハ文ヲ省略スルナリ伺面ノ如キ

棒鎖二日ヲ加テ懲役終身ニ處ス可シ

第二條 伺ノ通

第五十三條

明治八年十二月九日千葉縣ヨリ司法省ヘ伺

改定律例第三百五條凡ソ懲役人逃走ヲ圖リ未ク役場ヲ

離レヌシテ捕ニ就ク者云々ト有之監獄則賞罰條中脱監

逃亡ヲ企ル者ハ之ヲ第一則ノ罰ニ處シ云々第一則ヨリ

第六則マテノ罰ハ獄司之ヲ專決スト有之就テハ逃走ヲ

圖リ未ク役場ヲ離レヌシテ捕ニ就ク者ト脱監逃亡ヲ企

監獄則

ル者ハ隨テ區別可有之右區別假令ハ監獄ノ格子ヲ切ル
ト雖モ未タ全ク切斷セサル内發覺シ脱監逃亡ヲ企ルノ
顯跡アル者ノ如キハ獄司之ヲ專決シ其既ニ切斷シテ監
外ニ逸出シ獄舎ノ物置或ハ工藝場等ニ潛伏シ役場ノ圍
内ヲ離レサル中捕ニ就ク者ノ如キハ裁判所ニ付シ例第
三百五條ニ依リ處斷相成儀ト相心得可然哉
前件ノ場合ニ於テ其逃走ヲ報シ因テ逃走ヲ致サ、ルコ
ト得ル者ハ例ニ照シ本罪ニ一等ヲ減セラハ、儼ハ勿論
ニ候ヘモ脱監逃亡ヲ企ル者ヲ報スルト逃走ヲ圖リ既ニ
監外ニ逸出シ未タ役場ヲ離レサルヲ差押訴出ル者トハ
區別無之並ニ例第三百四條ニヨリ處斷相成候儀ト相心
得可然哉相伺候也

(指令)

二條共同ノ通

第五十四條

明治八年五月八日山
形縣ヨリ司法省ヘ伺

懲役人外役向途中割烹店ニ立入酒食ヲ喫シ或ハ娼婦處
女等ニ姦通スルモ懲役人ハ棒鎖酒食ヲ喫セムル者
又ハ相與ニ相和スルノ娼婦處女等ハ情ヲ量リ不應爲輕
重ニ問例ニ依リ取贖可然哉ノ旨先般奉伺候所懲役人ハ
不應爲輕重ニ問云々ト御指令有之就テハ爾後犯罪ノ者
ヲ不應爲輕重ニ問加役スル儀可有之ニ付猶熟考仕候所
元來割烹店ニ酒食ヲ喫シ娼婦處女ニ姦スルハ一般人民
ニハ固ヨリ罪ヲ問ハス懲役人ト雖モ逃走シテ他ニ投宿

監獄則

シ酒食ヲ喫スルモ外ニ在テ又別罪ヲ犯ストナシ加役スルノ限コアラサルヘシ然ルキハ右犯罪ハ監獄域中ニ在テ始テ罪アリト爲ス所謂獄則ヲ犯ス者ナラン律例ニ照シ加役セスシテ監獄則ニ依リ棒鎖暗室等ノ罪則ヲ以テ處分スヘキ儀コハ有之間敷哉疑義ヲ生シ候間再應奉伺候也

(指令)

伺ノ通

第五十五條

明治八年三月十五日
司法省ヨリ正院ヘ伺

懲役終身ノ者百日以下ノ罪ヲ犯スハ例第五條ニ照シ棒鎖ニ處分シ來候得共一年以上ノ罪ヲ犯ス者ノ的例無之

例第三百二條逃走スル者ハ絞ト有之逃走罪ハ十年以下ノ者ニ在テハ棒鎖二日ニ過ス然ルニ終身ノ者ハ絞コ入ルノ法ニ有之候別紙罪案書當府下磯田安次郎儀ハ同四佐藤米吉謀殺ノ造意ニ同意シ行フテ傷スル者即チ從ニシテ加功スル者ニテ本罪懲役十年ニ該ル者ニ候ヘハ逃走罪ノ絞ニ入ルニ比照シ絞ニ被處可然候哉仰御裁決度口書之相添此段相伺候也

(指令)

伺ノ通

第五十六條

明治八年四月三十日大
坂府ヨリ司法省ヘ伺

懲役人監獄罰則ヲ犯シ二罪俱發ノ節度毎ニ罰シ候テ可

監獄則

然哉

懲役人罰條第一則三則四則ニ處シ候節佇立難致或ハ鎖丸等掌上ニ置或ハ兩石兩水桶ヲ荷候儀力堪ユルヲ能ハサル旨申立於醫案確實ナル者又ハ確實ナラサル者如何處分シ可然哉相伺候也

(指令)

第一條 伺ノ通

第二條 醫案確實ナレハ第五則ニ依テ處シ確實ナラサル者ハ常則ニ從ヒ輕重其宜ヲ得ヘシ

第五十七條

廣明治八年十二月廿二日
鳴縣ヨリ司法省ニ伺

茲ニ甲懲役人ノ逃走ヲ企ルアリ乙同囚ニ竊ニ情ヲ漏シ

同逃ヲ謀ル乙伴ヲ陽ニ同意ス於是甲又乙ニ脱監ノ具ヲ求ム(假令ハ乙指物職ノ殊藝アルモノニテ金刃ヲ所持スルモノ)乙以爲與ヘテ報センカ不與シテ報センカ竊口與ヘテ罪ヲ犯スモ確跡ヲ得テ訟ヘサレハ却テ誣告ノ罪ニ罹ラシトテ恐レ一時ノ權策ヲ以テ需ニ應シ貸與ス直チニ管守者ニ申報シ併セテ金刃ヲ與ヘシ罪ヲ自首スルモノアラシ是ヲ律ニ問フ例第三百四條ニ依リ無論減等ニ處シ可然哉將々荷モ應禁物ヲ擅ニ與フル罪アルモノニ付犯罪ノ首免ヲ與フル迄減等ノ恩典ヲ加ヘサルモノカ聊疑團ヲ生ス如何處分シ可然哉相伺候也

(指令)

乙甲ノ逃走ヲ企ルヲ惡ミ之ヲ告ント欲スルノ情アレハ

監獄則

其逃走ヲ助クルノ具ヲ與フ可カラス而シテ乙甲ノ求アルヲ幸トシ金刃ヲ與ヘ以テ口實トナシ逃走ヲ報スルト雖モ第三百四條ノ逃走ヲ報スル者ト一例ニ看做シ難シ其金刃ヲ與フルコトハ首免ヲ與フ可シ

第五十八條

明治八年十二月十五日宮城縣ヨリ上等級裁判所へ伺

懲役一年以上ノ囚人役限内再ヒ逃走スル者改定律例第二百九十八條ニ照シ懲役終身ニ止メ逃走シテ外ニ在リ懲役終身ニ該ル竊盜四犯若クハ竊盜三百圓以上ノ如キ罪ヲ犯スモノ棒鎖二日ノ上懲役終身ニ處決シ再逃スル者ト區別相立候様斷例相見候所棒鎖二日ハ原杖七十ヲ改メル者ヒテ獄法トスルトキハ再逃ト雖モ棒鎖二日ヲ

加ヘ至當ニ可有之哉又ハ再逃ノ刑名懲役終身ナルヲ以テ更ニ棒鎖ヲ加ヘスシテ可然哉此段相伺候也

(指令)

懲役一年以上ノ囚人再ヒ逃走シ懲役終身ニ該ル者及ヒ逃走外ニ在テ懲役終身ニ該ル罪ヲ犯ス者ハ並ニ逃走罪棒鎖ヲ科ス可シ

第五十九條

明治八年五月五日廣島縣ヨリ司法省へ伺

懲役終身ノ囚役場營繕ノ際工人所持ノ鑿ヲ竊取シ時ヲ待テ破監逃走セントスル者アリ右ハ明治七年御省日誌第二百三號新潟縣ヨリ懲役終身ノ囚百日以下ノ犯罪アルトキハ例第五條ニ依リ云々ノ伺ニ照準スレハ竊盜罪

監獄則

一圓以下ナルヲ以テ管五十ノ換刑棒鎖一日處斷可然ト
存候得共荷モ破監ノ具トナシ以テ脱走セント供認スル
以上ハ監獄則第八條ニ依リ脱監逃亡等ヲ企ル者ヲ以テ
論シ獄司ニ在リテ處置スル却テ允當ナランカ聊カ疑ナ
生シ候間此段相伺候也

(指令)

伺ノ通獄則ニ照シ處分スヘシ

第六十條

明治九年四月十五日
并縣ヨリ司法省ヘ伺

懲役一年以上十年以下ノ囚人限内再逃スル者改定律例
第二百九十八條ニ依リ懲役終身ニ科斷スルハ無論ナリ
ト雖モ今爰ニ懲役終身ノ上ニ棒鎖二日ヲ重科スヘキ勸

議ヲ生ス本議ノ理由素ヨリ明解アラサレトモ猶ホ本議
ノアルヲ以テ熟考スルニ該條例ハ全ク懲役囚ノ逃罪ヲ
科斷ス可キ律意ニシテ又棒鎖ヲ重科スルノ明文ヲ見サ
レハ即チ懲役終身ノ上ニ棒鎖ヲ科スルノ理ナカル可
然レモ若シ棒鎖ヲ重科スルノ儀ナルレハ該條例中ノ初
メテ逃走スル者棒鎖二日トアル上ニモ又棒鎖一日カ半
日ヲ重科セサレハ權衡平ヲ得ス依テ彼是紛議アルニ付
此段相伺候也

(指令)

再逃スル者棒鎖二日ヲ科シ懲役終身ニ處ス初逃再逃輕
重權衡自ラ異ル所アリ

第六十一條

監獄則

明治九年九月十九日青森縣ヨリ内務省へ伺

監獄則第八條獄丁其管スル所ノ外役ノ囚逃亡シ即日之ヲ拿捕スル能ハサレハ之ヲ罰スルニ共僱錢ヲ奪ヒ懲治監ニ入ルヲ半年ヲ以テス然レ共其平日謹救ナル者ハ獄司之ヲ其管轄廳ニ具狀シ寬典ヲ乞フ應議之ヲ許セハ一月ノ俸ヲ奪ヒ且其一等ヲ貶スト有之ヲ當縣ノ如キハ監獄器械モ未ク全備セサルヨリ懲役人戒具等モ當分用ヒサルノ旨明治六年八月司法省へ上申及ヒ置候處獨リ罰則ノニ嚴ニ相科シ候テハ少ク相當ナラサルニ似ヨリ且失囚ノ情狀ヲ密按スルニ其實況尤憫諒スヘクシテ一月ノ俸尙奪フニ忍サル者アリ依テ獄則全備迄ノ間ハ明治七年十二月第百三十四號公布ニ比擬シ事情ヲ酌量

半月或ハ十日間ノ俸ヲ奪ヒ適宜處分可然哉相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣ハ本年第三拾四號及ヒ六月番外公達ニ據リ適宜處分可致候事

但七年第百三拾四號公布ハ行政官執行ノ限ニ無之儀ト可相心得候事

第六十二條

明治八年七月二十四日廣島縣ヨリ司法省へ伺

於當縣禁獄相成居候元久留米縣卒下川襄助以下五名ヨリ署中見舞ノ爲メ父母或ハ妻子ノ内へ書狀差送り方ノ儀願出候處書面獄吏檢査ノ上害障無之候得ハ送達方取計又其返書差越候節ハ是亦調査ノ上不都合無キニ於ハ

監獄則

差入遣シ可然哉且向來暑寒ノ節前件ノ通り書翰往復ノ儀願候時ハ右ノ手續ヲ以テ差入方取計可申哉本人身前ノ儀ニ付テハ昨七年十一月相伺御指令ノ趣モ有之候ニ付此段相伺候也

(指令)

伺ノ趣自今監獄則第九條信書ノ例ニ照準可取計事

第六十三條

明治八年八月二十五日
東京府ヨリ司法省へ伺

懲役人ノ中其親戚ヨリ本人ノ父母兄弟及ヒ妻子ノ寫眞ヲ差入一覽ヲ乞フ時ハ其願書ニ寫眞ノ如ク身體壯實ナルユヘ常々無餘念只管服役ヲ精勉シテ改心ス可キ旨ヲ認サセ寫眞ト共ニ白洲ニ於テ閱見ヲ許シ已後寫眞ハ願

人へ還付シ自然差出置度望ニ候ハ、署ニ收メ置解放ノ節當人へ相渡候様可致哉取締筋ニ於テハ吏員附添不都合無之様注意可致候此段相伺候也

(指令)

懲役人ノ父母兄弟妻子ヨリ其寫眞圖ヲ贈ラント乞フ者アルキハ書信ト見做シ伺面ノ通手數致シ犯人ニ看見セシメ候儀不苦候事

第六十四條

明治九年四月十八日
視廳ヨリ司法省へ伺

獄舎へ書籍差入ノ儀ハ是迄習慣ニヨリ禁制ノ書冊モ有之候得トモ今ヤ進歩ニ從ヒ種々ノ書籍差入出願ノモノ往々有之候ニ付新聞紙又ハ遊戯狼麩ニ涉ルノ書籍ヲ除

クノ外ハ差入附届不苦儀ニ候哉相伺候也

(指令)

伺ノ通

第六十五條

明治九年八月廿八日 廣島縣ヨリ内務省へ伺

懲役人使役方法ノ儀ハ監獄則ニ照準施行致シ來候處兎角雇工錢揚リ高僅少ニシテ遂ニ多分ノ官費ヲ仰クニ立至リ候其原因タルヤ殊藝者工職ニ勉強シ過分ノ工錢ヲ揚ルト雖モ僅ニ殊藝上級ノ日給ヲ與ルマテニテ其殘餘金ハ他囚ノ費用ヲ補フニ依リ終ニ渠カ所得少キヨリ自然怠惰工藝ニ勉強セサルニアリ依テ懲戒ヲ主トシ役法ヲ改革シ專ラ工藝ニ従事セシメ雇工錢ヲ引入元金ヲ以テ

一身ノ費用ヲ引去リ有餘アル者ハ概シテ殊藝ノ級ニ入レ至當ノ日給ヲ與ヘ尙殘餘アルハ積置放免ノ節還付シ尤刑中罹病等ニテ工錢不揚時ハ右積金ヲ以テ償還致シ候時ハ各囚職業ニ勉強シ隨テ雇工錢モ揚ル可クト見込既ニ本年四月以來試行候處果シテ實効有之改法前三ヶ月本年一月ヨリ雇工錢ト改法後三ヶ月四月ヨリ雇工錢ト比較大凡貳百五圓八拾錢貳厘改正後増加ト相成リ後來屹度官費減少ノ見込有之候處不圖懲役場火災ニ付役場出來ノ上ハ右方法施行仕度相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣ハ一般ノ成規ニ背戻ヲ以テ難聞届尤一等役ニ進ム時ハ工錢他囚ノ費用ヲ補フ事無之儀ニ付右等厚

シ説諭工業勉強從事候様可取計事

第六十六條

明治九年八月八日大
阪府ヨリ内務省へ伺

監獄則工錢條凡役囚壹等ニ進メハ其製作スル物品ヲ販賣シテ之ヲ官ニ領置シ云々譬へハ懲役十年ノ者七年一日役過シ本罪壹等減ニ相成候者最前壹等ニ至ラサル故製作物品價領置ナク勿論右物品ハ五等乃至二等役ノ者製作物品ヲ混シテ追々販賣致スニ付今更難引分依テ本罪減等相成候節ノヌメ豫メ惣囚ノ製作物品價等各自ニ記載致シ置候ハ、差間無之候得共多囚ノ分各自ニ記載スルモ頗ル煩雜ニ涉リ候間右等ノ者雇工錢並日給付與如何取計可然哉相伺候也

(指令)

書面ノ趣一等役限ノ一日分ヲ給與可致候事

第六十七條

明治十年二月一日島根縣ヨリ内務省へ伺

明治八年御省日誌第六號京都府伺已未決囚雨具及足部ノ具費用云々ノ儀へ雜費金ノ内ヨリ可給與ト御指令有之然ルニ當縣ノ儀ハ山陰ノ僻地ニシテ降雨多ク殊ニ春夏秋冬ノ二季ニ至テハ最甚トス且ツ懲囚ノ使役ハ道路修繕田畝耕耘ノ類ニシテ雨具ノ破損モ不少依テ雜費金ノ内ヨリ仕拂候時ハ不足ヲ生シ差支候間右草鞋蓑笠等ノ費用已決囚等ハ外役元入品ニ付備工錢ヨリ未決囚ハ額外常費ヨリ仕拂候様致度相伺候也

監獄則

(指令)

書面伺ノ通

但已決囚ハ雜費金不足ノ節本行ノ通可相心得事

第六十八條

明治十年三月廿九日
岡縣ヨリ内務省へ伺

懲役人其等級ニ依リ備工錢ノ中ヨリ附與スヘキ金員ハ獄署へ領置シ放免ノ節下附スヘキ成規ニ候處本犯親族ノ貧窮ヲ察シ右金差贈度旨申出候節ハ聞届不苦哉相伺候也

(指令)

書面伺ノ通

第六十九條

明治十年三月十六日
坂府ヨリ内務省へ伺

懲役人雇工錢ニ無之兼テ官ニ領置セル所持ノ金ヲ以テ新律綱領并改定律例或ハ憲法類編諸省日誌等ヲ買入レ渡方願出候節ハ聽届可然哉相伺候也

(指令)

書面伺ノ通

第七十條

明治十年二月十三日
奈川縣ヨリ内務省へ伺

第一條

一 監獄則改定律例御頒布以來總テ犯罪ノ徒未曾有人寛典ニ處セラレ候ニ付深ク斟酌ヲ加ヘ懲役囚役限第一第二ニ進ム者ハ官ヨリノ賜暇及疾病ニ罹リ休役スル日ノ食費ハ收納備工金ノ内ニテ仕賄來候處客歲御省

監獄則

日誌第四拾六號ノ内九月二日大坂府伺懲役表第一等
 進ム役囚官ヨリノ賜暇并疾病ニ罹リ休役スル日ノ
 日給ハ給與セズ食費ハ官費ニ相立云々ハ官費支給難
 相成旨御指令有之然レハ休役ノ食費ハ各自御賃金ノ
 内ヨリ引去ルハ勿論ニ候得共斯ノ如クスルキハ放縱
 ノ日給與金輕微或ハ皆無ニ有之然ルニ永ク役場ニ在
 テ辛苦悔悟シテ善心ニ歸シ候徒モ一時方向ヲ失ヒ過
 テ不良ノ念慮ヲ萌生スルノ恐レ有之ニ付前顯休役ノ
 食費ハ従前ノ通備工金ノ内ヨリ仕拂可然哉

第二條

一客歲御省日誌第四拾九號ノ内八月八日前同府伺改定
 律例第三百條云々外ニ在テ又三年以下ノ罪ヲ犯セハ

後犯ノ年限ニ原犯ノ年限ヲ合テ拘役スルモ亦四年ニ
 過クルヲ得ス云々譬ハ原犯一年ニシテ又一年ノ
 罪ヲ犯シ合セテ二年拘役ノ者原犯ハ懲役表一年ノ等
 級ヲ以テ使役スル云々ハ伺ノ通可心得旨御指令有之
 然處原犯一年ニシテ又一年ノ罪ヲ犯シ合セテ二年拘
 役ノ者ハ懲役表ニ依リ全ク二年ノ一等級百三十日ノ
 備錢還付シテ當然ナレバ御指令ノ旨ニ準據スルモハ
 一等ノ日數百日ニシテ三十日減少ヲ生シ且一度一等
 役ニ至リシ者再ヒ五等役ニ復サ、ルヲ得サル儀ニテ
 使役ノ順次ヲ失シ少シク穩當ナラサルニ似タリ右ハ
 如何相心得可然哉

右兩條相伺候也

(指令)

第一條 食費ヲ扣除スルハ監獄則第十二條第一項ニ依

ルニシ

第二條 假令ハ原役一年ノ者五等役ヲ經テ四等役ノ日

數原役通計シテ二百日トシ三等ハ百四十日二等ハ九

十日一等ハ百日ト配算使役スヘシ

第七十一條

明治十年十二月埼玉縣

懲役人使役方ハ監獄則ヲ照準施行可致ハ勿論ニ候處當

縣懲役場ノ儀ハ舊浦和縣ニ於テ役囚五拾名ノ目途ヲ以

テ建築致候由然ルニ本縣創立以來人員増加候ニ付檻舎

建増或ハ摸樣換等イッテ一時ヲ補置候得共百五拾名以

上ニ至テハ入場セシムルヲ能ハス無餘儀別冊第一條ニ
リ第七條マテノ通り適宜ノ方法ヲ設ケ實際施行致來候
處今般監獄則ニ照準懲役場等造築ノ儀取調相伺候積ニ
付御許可ノ上落成候ハ、御規則ノ通無論可取扱候得共
目今實際差開候間前顯御聞届相成度且又第八條第十五
條ニ至ル件々併テ相伺候也

別冊

第一條

一當縣懲役場ノ儀工藝場至テ狹隘加フルニ各職器械全
備不致殊難者僅少ノミナラス物品ヲ製造スルモ通運
不便ノ地ニテ元品仕入諸費多クシテ自然高價ニ至リ
之ヲ販賣スルニ益ナク且ツ役法實際ニ於テ役限ノ等

監獄則

級法ヨリ羈束セラレ工役ノ活用ヲ得サルヨリ利潤甚薄
ク終ニハ費用償却モ不相立ニ付工力雜役ノ三等ニ區
分シ使役致來候

第二條

一 塲中狹隘ニ付役囚百五拾名以上入檻セシムルコト不能
然ルニ目今平均四百名ヨリ下ラス之ヲ役スルヤ管下
便宜ノ村驛明家ヲ借受ケ一時驅役所トシ役囚配置專
ラ外役ヲ爲致候得共監獄則ニ依準スル時ハ囚徒ヲ備
ハント欲スルモノアレハ幾運云々ト有之當縣ニ於テ
ハ開墾土石運搬勞役無之十中八九ハ耕耘備多ク故ニ
本則ニ照準シ難ク候ニ付管内人民役囚ヲ備度旨願出
シテ者ハ重輕ノ内謹救ナル者ヲ撰ミ貸渡シ朝夕看

守人ヲシテ迎送看護爲致或ハ村吏調印ノ預リ証書ヲ
出サシメ備主ヘ責付シテ驅役致來候

第三條

一 女囚ノ儀工業塲未ク設置無之ヨリ内役ハ僅ニ各囚衣
類洗濯等ノミニシテ授業ノ方法不相立ヨリ不得已近
傍村驛ヘ看守人ヲシテ往返迎送外役備ニ差出來候

第四條

一 懲役囚戒具ノ儀五等役ヨリ四等三等二等役ヲ經過ス
ル迄戒具ヲ付スルハ勿論ニ候處當縣ニ於テハ未ク戒
具整備無之ニ付追テ全備候迄各囚身體ノ強弱ニ應シ
難易ヲ量リ力役ニ付シ其所得傭工錢ノ多寡ヲ以テ役
業等級ヲ豫定シ重輕ノ内篤ト撰分シテ適宜ニ戒具ヲ

用來候

第五條

一 役囚滿期放免付與金ノ儀監獄則ニ依ルキハ殊懸上級ノ者ハ日壹錢中級ハ五厘下級ハ貳厘五毛ヲ給ス其一等ニ進ムモノ日給錢ト食費トヲ引去リ剩ル金ハ悉ク還付ス云々ト有之當縣役囚ハ殊懸ノ者モ無之偶之アルモ實際ニ於テ其製造スル物品ヲ販賣シテ利アラサルヨリ多クハ外役ニ出シ所得ノ傭工錢ヲ以テ食費償却可相立者ヲ殊懸者ノ三級ニ看做シ日給錢支給致來候

第六條

一 懲役百日以下獄則ヲ照準スルキハ五等ノ役ニ止リ無

給ナリト雖モ當縣ニ於テハ前條ノ通り場内ニ於テ役スルノ能ハサルヨリ決行入場直ニ外役ニ差出シ其所得ノ傭工錢ヲ以テ食費償却可相立者ハ之ヲ殊懸者ニ看做シ日給錢等付與致來候

第七條

一 監獄則官員ノ條ニ役囚ノ休日モ亦官員ニ同トアルニ依リ休暇日御改正以來日曜日ハ勿論土曜日モ午後半日休役爲致候處各囚ノ内猶ホ内外ノ役ニ就キ度旨願出ツル者有之右等ハ其請ヲ許シ該日所得ノ傭工錢ハ悉ク加給トシテ本人ニ給付致來候

第八條

一 不肖ノ子弟其父兄ノ情願ニ依リ懲治檻ニ入置ク者或

監獄則

ハ無籍ニシテ投産場ニ差置ク者等使役ノ方法ハ稍寛ナルト雖モ禁止物包藏シ若クハ脱檻ノ企テ爲ス等總テ一般獄則ニ觸ル、キハ已決ノ囚ニ準シ處分可然哉

第九條

一御省本年乙第百三號御達處刑濟原籍掛合中留置ク者之ヲ投産場ニ置クヘシ中賄費ノ儀ハ未決ノ平囚ニ準シ云々有之然ルキハ囚人給與規則ニ依リ白米四合ヲ給スルハ勿論ニ候處固ヨリ役囚ニアラサレハ敢テ役ヲ執ラシムル儀ニハ之ナクト雖モ身體壯健ノ輩ニ至テハ坐食ヲ欲スル者ナク依テ相當ノ傭工爲致候時ハ已決囚ニ倣ヒ傭工相當ノ食量ヲ與ヘ不苦哉若シ然ルキハ四合ノ外加食費ハ懲役費ヨリ仕出スヘキヤ將

囚獄額外常費ヨリ仕拂可然哉

第十條

一前同斷ノ者入場照會中被服換ノ期節ニ至ル歟或ハ即今襪縷薄衣等ニテ其儘難差置者別ニ被服ヲ貸與ヘ本管ヘ引渡後代償セシムト雖モ或ハ赤貧無力或ハ附籍ヲ願フモ固ヨリ親戚ニアラス只情義ヨリ出ル者等ニ至テハ其代價ヲ支辨セシメ難キ情勢有之此ノ如キハ官費支給何レノ費額ヨリ仕拂可然哉

第十一條

一懲役囚及懲治人又ハ無籍ニシテ投産場ヘ差置ク者等若シ逃亡シテ踪跡知レサル者ノ殘品有之キハ壹ケ年ヲ經過シテ捕ニ就カサレハ之ヲ賣却シ放免ノ際付與

スヘキ備工錢ヲ併セテ懲役費元ニ組込可然哉
但父兄ノ情願ニ依リ懲治檻ニアルモノハ殘品ハ其
父兄へ還付勿論ノ儀ト存シ候

第十二條

一 原籍掛合中授産場ニ留置ノ者ノ内目今齡五年ノ女兒
ヲ携フル者アリ右食量ノ儀ハ囚人給與規則中輕役十
年以下男女共白米二合七夕トアルニ依リ七年未滿ト
雖モ同様ノ儀ト相心得可然哉
第十三條
一 懲役囚并懲治人等ハ工役ノ暇習字算術讀書ノ教授爲
致度候處當縣ノ如キハ未タ教育ノ方法不相立候得共
檻則中既ニ教師ノ設アルヲ見レハ右ニ屬スル諸費ハ

總テ懲役費ニ相立可然哉

第十四條

一 御省第百拾七號公布違式註違條例第三條改正中違式
ノ罪ヲ犯シ無力ノ者ハ實決法ニ依リ懲役八日ヨリ少
カラス十五日ヨリ多カラスト有之就テハ右服役中病
ニ罹リ休業スレハ獄則償役法ヲ以テ論シ懲役十五日
ニシテ三日ノ休業ハ之ヲ限内ニ算入シ三日以上ハ償
役セシメ又懲役八日ヨリ九日或ハ十一日ヨリ十四日
等ノ五日ニシクサル端日數ニ至テハ折算上聊カ差ヲ
生スルト雖モ五日未滿ハ之ヲ半日トナシ譬ヘハ懲役
八日ヨリ二日休業スル如キ一日半ヲ限内ニ算入シ半
日ヲ償ハシメ可然哉

第十五條

一當縣懲役囚外役ノ爲メ各所ニ授産所ヲ設置シ役囚差遣置候處時々發病ノ囚モ有之依テ近傍醫師ヲ招キ治療爲致來リ候得共無給ニテハ難澁ノ趣相聞乍去獄醫定額金ニテハ不足ヲ生シ支給難相成候間月給三四以内ヲ以テ各所へ壹名ツ、相備置度懲役費ヨリ仕拂可然哉

(指令)

書面ノ趣左ノ通可相心得其他聞届候事

第二條 雇主村吏へ責付ノ儀ハ不相成候條改正ノ見込可相立候事

第五條 明治八年當省乙第三拾九號達ニヨリ雇工錢拂

ニ屬スル分償却致シ猶ホ贏餘有之者ハ聞置候事

第七十二條

明治七年十二月函館裁判所ヨリ司法省へ伺

監獄則處刑條已決病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞フ者ア
レハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽スト然レ
ハ死囚ノ本管ニ通達シ然ル後親戚乞フ者ナケレハ官醫
ノ解剖ヲ聽ス儀ニ可有之哉若シ果シテ然レハ道程ノ遠
近十日乃至二十日ノ久シキヲ經サレハ乞フ者ノ有無知
ル可ラス因テ當日乞フ者ナケレハ辛未年十月十日本省
布達絞斬梟示等ノ刑ヲ加へ候云々行刑ノ當日解剖場へ
引渡置云々ニ依リ取計候儀ニ可有之哉右地方官關係ノ
儀ニ候へ共豫テ承知致置度此段相伺候也

監獄則

(指令)

伺ノ通

第七十三條

明治九年一月八日警
視廳ヨリ司法省へ伺

懲役人ノ中ニ司法省裁判所掛ノ者往々罷在然ルニ右裁
判所廢止相成候上ハ本犯放免及ヒ病死又ハ限内犯罪等
ニ就テハ東京裁判所へ掛合可申哉相伺候也

(指令)

書面司法省裁判所掛懲役人書類ノ儀東京上等裁判所へ

引繼有之候條右懲役人放免及病死ノ儀ハ同裁判所へ申

出限内犯罪ノ者有之節ハ東京裁判所へ掛合候様可致事

第七十四條

明治八年十一月十七日
佐賀縣ヨリ内務省へ伺

已決者病死及刑死ノ遺體ハ親族乞フ者ナケレハ官醫ソ
解剖ヲ聽ス旨監獄則中ニ有之候ニ付テハ解剖ハ勿論右
骨髄ヲ採取シ學具ニ供シ度旨縣下病院醫員ヨリ願出候
節ハ差許シ不苦儀ト存候得共爲念相伺候也

(指令)

書面伺ノ通

第七十五條

明治八年五月十日大
坂府ヨリ司法省へ伺

監獄則處刑ノ部中已決者病死及ヒ刑死ノ遺體ハ親戚乞
フ者アレハ之ヲ與フ乞フ者ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽ス
ト有之候所右ハ未決者病死ノ遺體モ右同様親戚乞フ者

監獄則

ナケレハ官醫ノ解剖ヲ聽シ候ヲ不苦儀ニ候哉御指揮被下度此段相伺候也

(指令)

伺ノ通

第七十六條

明治八年十二月廿四日
東京府ヨリ内務省へ伺

當府囚獄繫留ノ未決囚人病死刑房是マテ五等親族共ノ内出願請求ノ者無之節ハ千住小塚原回向院へ埋葬來候處何分遠隔ノ場所ニテ長途往來人ノ迷惑ニモ相成甚不都合ニ付自今第九大區壹小區雜司ヶ谷町共葬墓地ノ内千三百五坪經界相立囚人埋葬地ニ取設申度段去月三十一日上市仕置候處共以後會議所墓地掛ヨリ猶申出候ニ

ハ墓地取扱規則第六條ノ部ヲ斟酌シ開墾手数料トシテ入費金百五十圓七錢五厘御下金相成度段事實無據次第ニ付官費ヲ以別途御下渡有之度別紙受書并墓地等級表共相添相伺候也
別紙除之

(指令)

書面伺ノ趣定額常費ヨリ支出候儀ト可相心得事

第七十七條

明治七年十二月廿二日
東京府ヨリ司法省へ伺

懲役人ノ中平常身體衰弱ニ有之候處ヨリ領置ノ衣類等親戚へ引渡他府縣ノ者ハ府下懇意ノ者ヲ指シ同様ニテ兼養ノ爲メ牛雞肉類好味ノ品ヲ買需差入願出候節ハ醫診察ノ上滋養可然見込ニ於テハ聞届不苦哉懲役場掛ニ

監獄則

申出候間宜々御指揮有之度此段相伺候也

(指令)

醫師診察ノ上滋養可然見込ニ候ハ、差許不苦候事

第七十八條

明治七年十一月三十日
同府ヨリ司法省ヘ伺

懲役中ノ者處刑ノ際裁判所ヨリ本人所持金引渡領置ノ
内ヲ以テ新律綱領并改定律例買入渡方願出候ニ付聞届
可然哉共掛ヨリ申出候間此段相伺候也

(指令)

伺ノ通

第七十九條

明治八年一月二十二日
東京府ヨリ司法省ヘ伺

懲役人ヲ使役スルヤ其限内疾病ニ罹リ休役スルハ滿限
ニ至リ償役スルニ付テハ出役ノ上午前病氣差發リ使役
ヲ歇ムル者本日ハ休役ト定メ可然哉然ラサレハ勞役シ
テ懲戒シ善ニ遷スト短期ハ勿論疾病ト詐稱シ役ヲ避
ク下欲スル者ノ預戒ニ不相成候最モ午後病氣發リ醫診察
ノ上治療ヲ施シ其外工役上ヨリ毀傷等ヲ被ルハ午前後
ヲ不論出役ニ取計可然哉相伺候也

(指令)

伺ノ通

第八十條

明治八年二月廿八日
東京府ヨリ内務省ヘ伺

懲役場罪囚食用春米ノ糠小米并明俵外ニ繩其他醬油明

監獄則

樽古獄衣脫キ綿又ハ無籍者類病死ノ節所持雜物賣拂代
金從來毎月大藏省へ上納致シ候處今般囚人諸入費ハ工
役益銀ヲ以償却致候様御布告ニ付テハ前文賣拂代金當
年分ヨリ大藏省へ上納ニ不及工役ノ益銀へ差加へ罪囚
ノ經費償却致可然哉尤精算帳ハ毎月差出可申此段相伺
候也

(指令)

書面伺ノ通

第八十一條

明治八年四月八日若
松縣ヨリ内務省へ伺

本年御省乙第三十九號御布達懲役場費用區別中第七項
懸隔ノ地ニ工役場有之地方屬下ニ出張ノ掛官員及醫

師看護人等ノ旅費日常常費ト有之然ルニ懲役十年以下
ノ囚人重病ニ係リ癡篤疾ニ無之即時全愈ノ見込難相立
者親族ノ願ニヨリ保責療養差許置臨時病體檢査ト掛
官員及醫師派出ノ節右旅費ノ儀ハ無論前文御布達ニ不
拘囚人ノ親族ヨリ取立可申ヤ就テハ醫師旅費ノ儀ハ等
外四等ノ振合ニテ可然ヤ相伺候也

(指令)

書面獄醫ノ儀ハ常費ノ内ニ以等外四等ノ旅費支給可致
候事

第八十二條

明治九年三月九日岡
山縣ヨリ内務省へ伺

斬首ノ劊子ハ獄舍附等外吏盡以可申付云々司法省壬申

監獄則